



# 目次

---

- 改訂情報
- はじめに
  - 本書の目的
  - 対象読者
  - 本書の構成
- 概要
  - インポート、エクスポートとは
  - 操作の流れ
  - 用語
- エクスポートの操作
  - エクスポート前の準備
  - エクスポートの実行
- インポートの操作
  - インポート前の準備
  - インポートの実行
  - インポート後の作業
- エクスポートデータ
  - エクスポートデータのフォルダ構成
  - CSVファイル
  - XMLファイル
- 制限事項
- 付録
  - インポート、エクスポートの対象
  - インポート、エクスポートのジョブ作成
  - インポート、エクスポートのリカバリー処理
  - XMLスキーマ

変更年月日	変更内容
2013-01-01	初版
2015-03-13	<p>第2版 下記を追加・変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">ユーザ属性定義ファイル (attributeDefinitions.xml)</a>」の保管定義ファイル、および一覧表示設定ファイルに関する記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">保管定義ファイル (retentionDefinitions.xml)</a>」の説明を追加しました。</li> <li>「<a href="#">一覧表示設定ファイル (listViewSettings.xml)</a>」の説明を追加しました。</li> <li>「<a href="#">クラス定義ファイル (classDefinitions.xml)</a>」の保管定義ファイル、および一覧表示設定ファイルに関する記述を追加しました。</li> </ul>
2015-08-01	<p>第3版 下記を変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">&lt;object&gt; 要素の表記方法</a>」の&lt;queryCondition&gt;要素に関する記述を変更しました。</li> <li>「<a href="#">XMLスキーマ</a>」の&lt;queryConditionValue&gt;に関する記述を変更しました。</li> </ul>
2016-08-01	<p>第4版 下記を変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<a href="#">エクスポートデータのフォルダ構成</a>」のユーザ属性定義ファイルに関する記述を変更し、メニュー表示設定ファイルに関する記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">ユーザ属性定義ファイル (attributeDefinitions.xml)</a>」に属性のデフォルト値関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">保管定義ファイル (retentionDefinitions.xml)</a>」にタイムスタンプ設定関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">メニュー表示設定ファイル (menuViewSettings.xml)</a>」の説明を追加しました。</li> <li>「<a href="#">メッセージカスタマイズ定義ファイル(messageCustomizeDefinitions.xml)</a>」にタイムスタンプ設定関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">ドログ情報ファイル (info.xml)</a>」にメニュー表示設定関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">フォルダ情報ファイル (info.xml)</a>」にメニュー表示設定、フロー一覧表示設定関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">&lt;object&gt; 要素の表記方法</a>」にメニュー表示設定、フロー一覧表示設定、NULL検索関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">CSVファイル</a>」の操作履歴ファイルに関する記述を変更しました。</li> <li>「<a href="#">データ</a>」に属性のデフォルト値、タイムスタンプ設定、メニュー表示設定、フロー一覧表示設定関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">属性</a>」にタイムスタンプ設定関連の記述を追加しました。</li> <li>「<a href="#">XMLスキーマ</a>」のXMLスキーマを更新しました。</li> </ul>

## 本書の目的

---

本書では、intra-mart Accel Documentsに登録されている対象データをエクスポートし、別のサーバのintra-mart Accel Documentsにインポートする方法を説明します。

インポートとエクスポートは、それぞれのサーバのintra-mart Accel Platformとintra-mart Accel Documentsを操作して行います。intra-mart Accel Documentsのデータをインポート、エクスポートする前にお読みください。

### コラム

インポートとエクスポートの対象データは、キャビネット、ドロワ、フォルダ、文書、ユーザ属性定義、セキュリティ定義、保管定義、一覧表示設定、クラス定義、タグ定義、モニタ定義、ポータル通知定義、メッセージカスタマイズ定義、公開文書情報、および操作履歴です。

対象データの詳細は、「[データ](#)」を参照してください。

## 対象読者

---

本書では、以下の利用者を対象としています。

- intra-mart Accel Platformを理解している技術者
- intra-mart Accel Documentsを理解している技術者
- 以下の条件を満たす、intra-mart Accel Documentsのカスタマイズや設計、開発、および管理を行う技術者
  - XMLを理解している
  - intra-mart Accel Platformのテナント管理者権限、intra-mart Accel DocumentsのAccel Documents管理者権限を所有している
  - インポート先のintra-mart Accel Documentsが稼働しているサーバのドライブにアクセスできる権限を所有している

## 本書の構成

---

- 概要  
インポート、エクスポートの概要、操作の流れ、用語について説明します。
- エクスポートの操作  
エクスポートの操作について説明します。
- インポートの操作  
インポートの操作について説明します。
- エクスポートデータ  
エクスポートデータのフォルダ構成、CSVファイル、XMLファイルについて説明します。
- 制限事項  
制限事項について説明します。
- 付録  
インポート、エクスポートの対象データ、intra-mart Accel Platformでのジョブの作成、リカバー処理について説明します。またXMLスキーマを記載しています。

## 概要

### インポート、エクスポートとは

インポート、エクスポートは、intra-mart Accel Documentsに登録されている対象データを、キャビネット単位でエクスポートし、別のintra-mart Accel Documentsにインポートするための機能です。

サーバを変更するときや、統合するときなどに、データの作成日時やバージョン管理における順序を変えることなくインポートできます。また、他のシステムに登録されている文書をintra-mart Accel Documentsにインポートすることもできます。

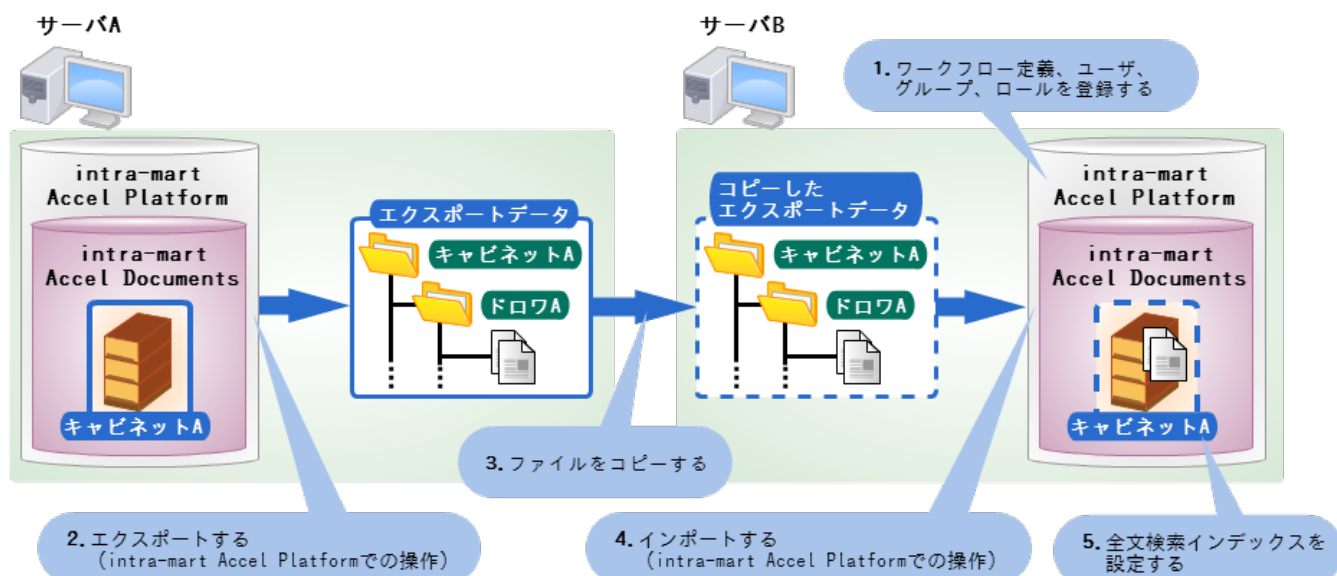
#### **i** コラム

対象データとは、キャビネット、ドロワ、フォルダ、文書、ユーザ属性定義、セキュリティ定義、保管定義、一覧表示設定、クラス定義、タグ定義、モニタ定義、ポータル通知定義、メッセージカスタマイズ定義、公開文書情報、および操作履歴を指します。

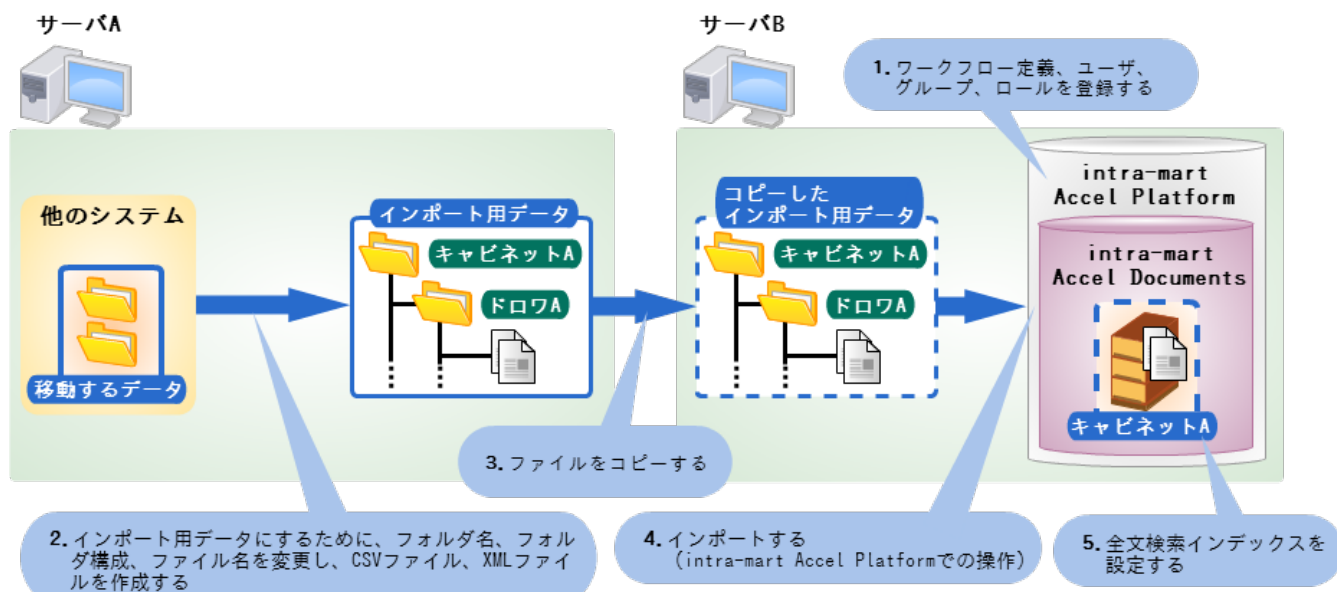
詳細は、「[インポート、エクスポートの対象](#)」を参照してください。

### 操作の流れ

- サーバAのintra-mart Accel Documentsに登録されている対象データをエクスポートし、サーバBのintra-mart Accel Documentsにインポートする場合



- 他のシステムに登録されているデータをサーバBのintra-mart Accel Documentsにインポートする場合



 コラム

- Accel Documents管理者とキャビネット管理者は、エクスポート中、またはインポート中のキャビネットを利用できません。
- エクスポート中のキャビネットをユーザが利用できるかどうかを、エクスポートの実行パラメータで設定できます。
- インポート中のキャビネットに対して、Accel Documents管理者、およびキャビネット管理者を除くユーザは、操作できません。

## 用語

- オブジェクト  
intra-mart Accel Documentsに登録される キャビネット、ドロワ、フォルダ、文書、タグ、属性定義、クラス定義の総称です。
- キャビネット  
文書管理の基本的な管理単位です。
- ドロワ  
キャビネットの下に登録できる入れ物です。
- フォルダ  
文書や他のフォルダをまとめて保管するための入れ物です。
- 文書  
テキストファイル、イメージデータファイル、DocuWorksやPDFなど、さまざまな形式の文書です。
- タグ  
フォルダや文書に付加することができる付箋です。  
タグには共有タグと個人タグがあります。
- クラス  
ドロワ内に登録されるフォルダや文書などのオブジェクトの種別を定義したものです。

ここでは、エクスポートの操作について説明します。

### エクスポート前の準備

intra-mart Accel Documentsのデータをエクスポートするには、以下の準備が必要です。

- 空のフォルダを準備する  
エクスポートするintra-mart Accel Documentsがインストールされているサーバ内に、空のフォルダを作成します。  
エクスポートするときに、作成した空のフォルダをエクスポート先フォルダとして指定します。

### エクスポートの実行

エクスポートは、intra-mart Accel Platformのジョブネットに設定されている実行スケジュールに従って実行されます。  
エクスポート処理の進捗は、intra-mart Accel Documentsの「メンテナンス」画面で確認できます。

#### コラム

エクスポートを実行するには、intra-mart Accel Platformの「テナント管理者」と、intra-mart Accel Documentsの「Accel Documents管理者」の両方の権限が必要です。

#### コラム

エクスポートの対象については、「[インポート、エクスポートの対象](#)」を参照してください。

### 実行スケジュールを設定する

#### コラム

エクスポートでは、あらかじめ登録されているジョブのカテゴリ、ジョブ設定、ジョブネットカテゴリ、およびジョブネットを使用するため、ジョブを新たに作成する必要はありません。  
何らかの理由でジョブを削除した場合は、「[インポート、エクスポートのジョブ作成](#)」を参照してください。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネット設定」をクリックします。
2. 「ジョブネット一覧」→「intra-mart Accel Documents」→「キャビネットのエクスポート」をクリックします。
3. 「このジョブネットを編集する」をクリックします。
4. 「実行パラメータ」の「パラメータを追加する」をクリックします。
5. 「パラメータリスト」の「キー」と「値」を入力します。



キー	値
exportDirectory (必須)	エクスポートデータを作成するファイルパスを指定します。ファイルパスには、空のフォルダを指定します。 指定できる文字列は、2,000文字以内です。
cabinetName (必須)	エクスポート対象のキャビネット名を指定します。

キー	値
enableAccess (任意)	キャビネットがエクスポート中のときに、一般ユーザからの操作を可能にするかどうかを指定します。利用可能にする場合は「true」、利用不可能にする場合は「false」を指定します。
xmlFileEncoding (任意)	エクスポートするXMLファイルのエンコーディングを指定します。指定しない場合は、UTF-8が選択されます。
csvFileEncoding (任意)	エクスポートするCSVファイルのエンコーディングを指定します。指定しない場合は、UTF-8が選択されます。

6. 「トリガ設定」の「日時指定」が選択されていることを確認し、「新規登録」をクリックします。

7. エクスポートする日時を指定し、「決定」をクリックします。

8. 設定したトリガの「有効」をチェックします。

9. 「この内容でジョブネットを作成する」をクリックします。  
確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

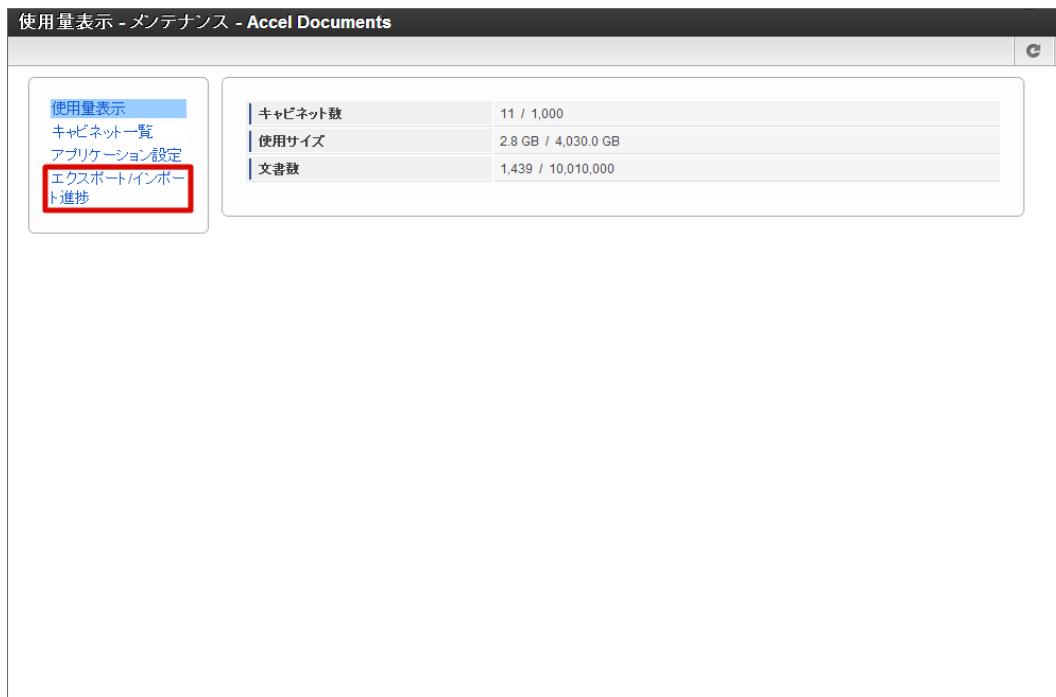
10. 実行スケジュールを設定できました。  
設定した内容で自動的にエクスポートが実行されます。

## 進捗を確認する

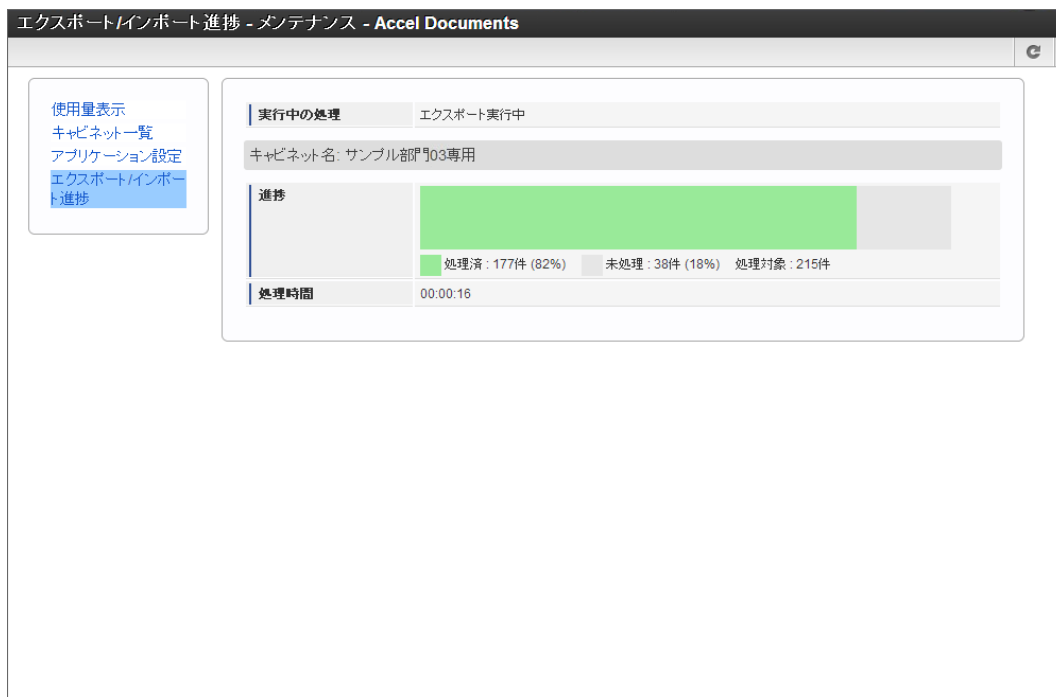
intra-mart Accel Documentsで、エクスポート処理の進捗を確認できます。

1. 「サイトマップ」→「Accel Documents」→「メンテナンス」をクリックします。
2. 「エクスポート/インポート進捗」をクリックします。





3. エクスポートの進捗が表示されました。  
 (例として、「実行中の処理」が「エクスポート実行中」の画面を使用しています)



<画面項目>

項目	説明
実行中の処理	次のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「エクスポート/インポートは実行されていません。」 インポート、エクスポートが実行されていません。</li> <li>「キャビネットのエクスポート実行中」 キャビネットをエクスポートしています。</li> <li>「エクスポート実行中」 キャビネットに保存されたオブジェクト（ドロワ、フォルダ、文書）をエクスポートしています。</li> <li>「関連オブジェクトのエクスポート実行中」 タグ定義、モニタ通知、ポータル通知、操作履歴、セキュリティ定義、メッセージカスタマイズ定義をエクスポートしています。</li> </ul>
キャビネット名	エクスポート中のキャビネット名が表示されます。

項目	説明
進捗	エクスポートの全処理に対して、処理済が占める割合がグラフで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 処理済 キャビネット内のエクスポート処理済件数を表しています。</li><li>■ 未処理 キャビネット内のエクスポート未処理件数を表しています。</li><li>■ 処理対象 キャビネット内のエクスポート処理対象件数を表しています。</li></ul>
処理時間	エクスポート処理開始からの経過時間を「<時>:<分>:<秒>」で表しています。



#### コラム

「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネットモニタ」をクリックすると実行結果を確認できます。

ここでは、インポートの操作について説明します。

## インポート前の準備

intra-mart Accel Documentsのデータをインポートするには、以下の準備が必要です。

- インポートするデータをコピーする  
インポートするデータをインポート先のサーバにコピーします。
- インポート先のintra-mart Accel Platformにユーザ、グループ、ロールを登録する  
ユーザ、グループ、ロールは、インポートとエクスポートの対象ではありません。そのため、インポート先のintra-mart Accel Platformに、エクスポート元と同じユーザ、グループ、ロールを登録する必要があります。
- ワークフロー定義を登録する  
ワークフロー定義は、インポートとエクスポートの対象ではありません。そのため、インポート先のintra-mart Accel Platform / IM-Workflowに、エクスポート元と同じワークフロー定義を登録する必要があります。

## インポートの実行

インポートは、intra-mart Accel Platformのジョブネットに設定されている実行スケジュールに従って実行されます。  
インポート処理の進捗は、intra-mart Accel Documentsの「メンテナンス」画面で確認できます。

### i コラム

インポートを実行するには、intra-mart Accel Platformの「テナント管理者」と、intra-mart Accel Documentsの「Accel Documents管理者」の両方の権限が必要です。

### i コラム

インポートの対象については、「[インポート、エクスポートの対象](#)」を参照してください。

## 実行スケジュールを設定する

### i コラム

インポートでは、あらかじめ登録されているジョブのカテゴリ、ジョブ設定、ジョブネットカテゴリ、およびジョブネットを使用するため、ジョブを新たに作成する必要はありません。  
何らかの理由でジョブを削除した場合は、「[インポート、エクスポートのジョブ作成](#)」を参照してください。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネット設定」をクリックします。
2. 「ジョブネット一覧」→「intra-mart Accel Documents」→「キャビネットのインポート」をクリックします。
3. 「このジョブネットを編集する」をクリックします。
4. 「実行パラメータ」の「パラメータを追加する」をクリックします。
5. 「パラメータリスト」の「キー」と「値」を入力します。



キー	値
exportDirectory (必須)	コピーしたエクスポートデータが格納されているファイルパスを指定します。指定できる文字列は、2,000文字以内です。
xmlFileEncoding (任意)	インポートするXMLファイルのエンコーディングを指定します。指定しない場合は、UTF-8が選択されます。
csvFileEncoding (任意)	インポートするCSVファイルのエンコーディングを指定します。指定しない場合は、UTF-8が選択されます。
restartMode (任意)	サービス、ホストの停止などでインポートが中断された場合に、インポートを最初からやり直すかどうかを指定します。 インポートを最初からやり直す場合は「true」、中断されたところから再開する場合は「false」を指定します。 「true」を指定する場合は、中断されたインポート時に作成された不完全なキャビネットを削除してからインポートを実行してください。

6. 「トリガ設定」の「日時指定」が選択されていることを確認し、「新規登録」をクリックします。

7. インポートする日時を指定し、「決定」をクリックします。

8. 設定したトリガの「有効」をチェックします。

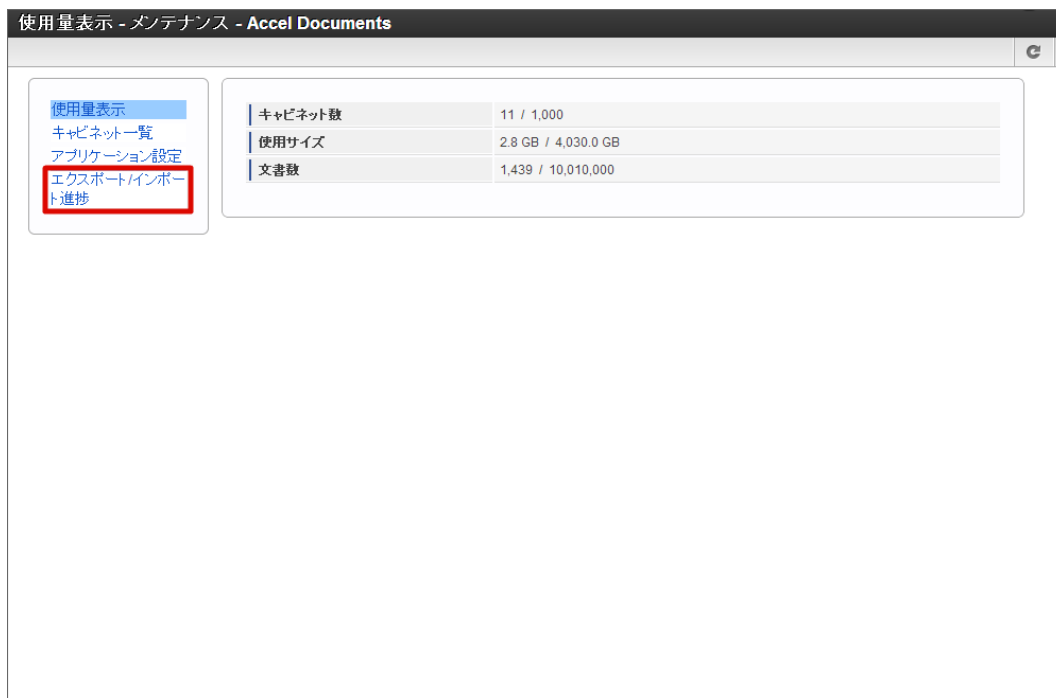
9. 「この内容でジョブネットを作成する」をクリックします。  
確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

10. 実行スケジュールを設定できました。  
設定した内容で自動的にインポートが実行されます。

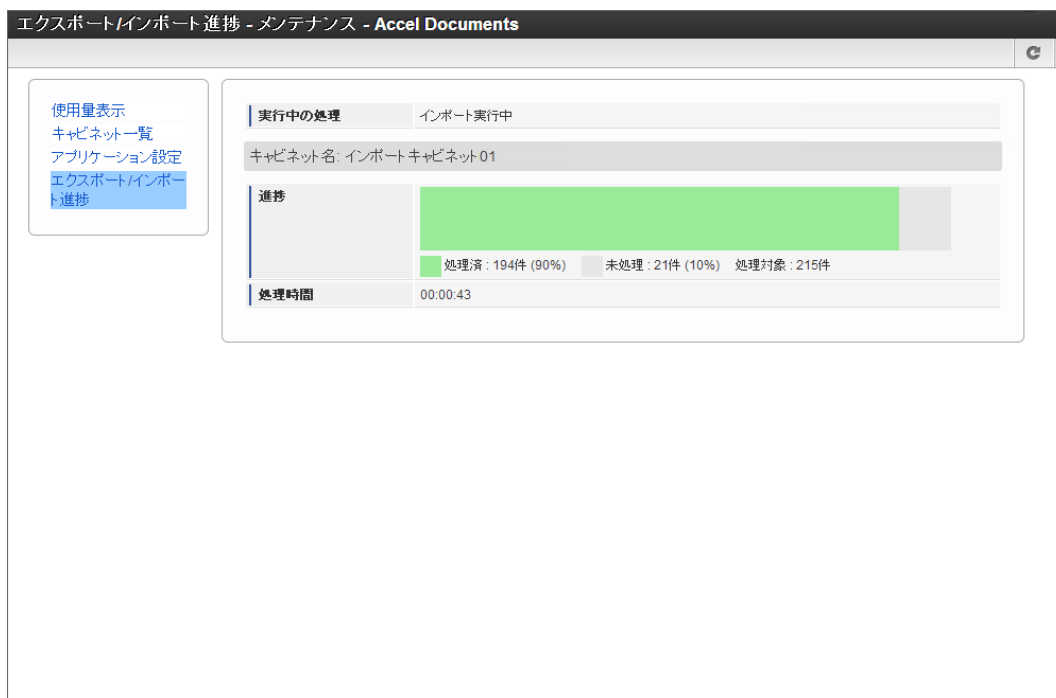
## 進捗を確認する

intra-mart Accel Documentsで、インポート処理の進捗を確認できます。

1. 「サイトマップ」→「Accel Documents」→「メンテナンス」をクリックします。
2. 「エクスポート/インポート進捗」をクリックします。



3. インポートの進捗が表示されました。  
(例として、「実行中の処理」が「インポート実行中」の画面を使用しています)



<画面項目>

項目	説明
----	----

項目	説明
実行中の処理	次のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「エクスポート/インポートは実行されていません。」 インポート、エクスポートが実行されていません。</li> <li>「キャビネットのインポート実行中」 キャビネットをインポートしています。</li> <li>「インポート実行中」 キャビネットに保存されたオブジェクト（ドロワ、フォルダ、文書）をインポートしています。</li> <li>「関連オブジェクトのインポート実行中」 タグ定義、モニタ通知、ポータル通知、操作履歴、セキュリティ定義、メッセージカスタマイズ定義をインポートしています。</li> </ul>
キャビネット名	インポート中のキャビネット名が表示されます。
進捗	インポートの全処理に対して、処理済が占める割合がグラフで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>処理済 キャビネット内のインポート処理済件数を表しています。</li> <li>未処理 キャビネット内のインポート未処理件数を表しています。</li> <li>処理対象 キャビネット内のインポート処理対象件数を表しています。</li> </ul>
処理時間	インポート処理開始からの経過時間を「<時>:<分>:<秒>」で表しています。

### コラム

「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネットモニタ」をクリックすると実行結果を確認できます。

## インポート後の作業

インポートしたあと、全文検索インデックスを設定します。

全文検索インデックスの設定は、必要に応じて行ってください。

全文検索インデックスはインポート、エクスポートの対象ではありません。そのため、インポート先のintra-mart Accel Documentsに、全文検索インデックスを設定する必要があります。

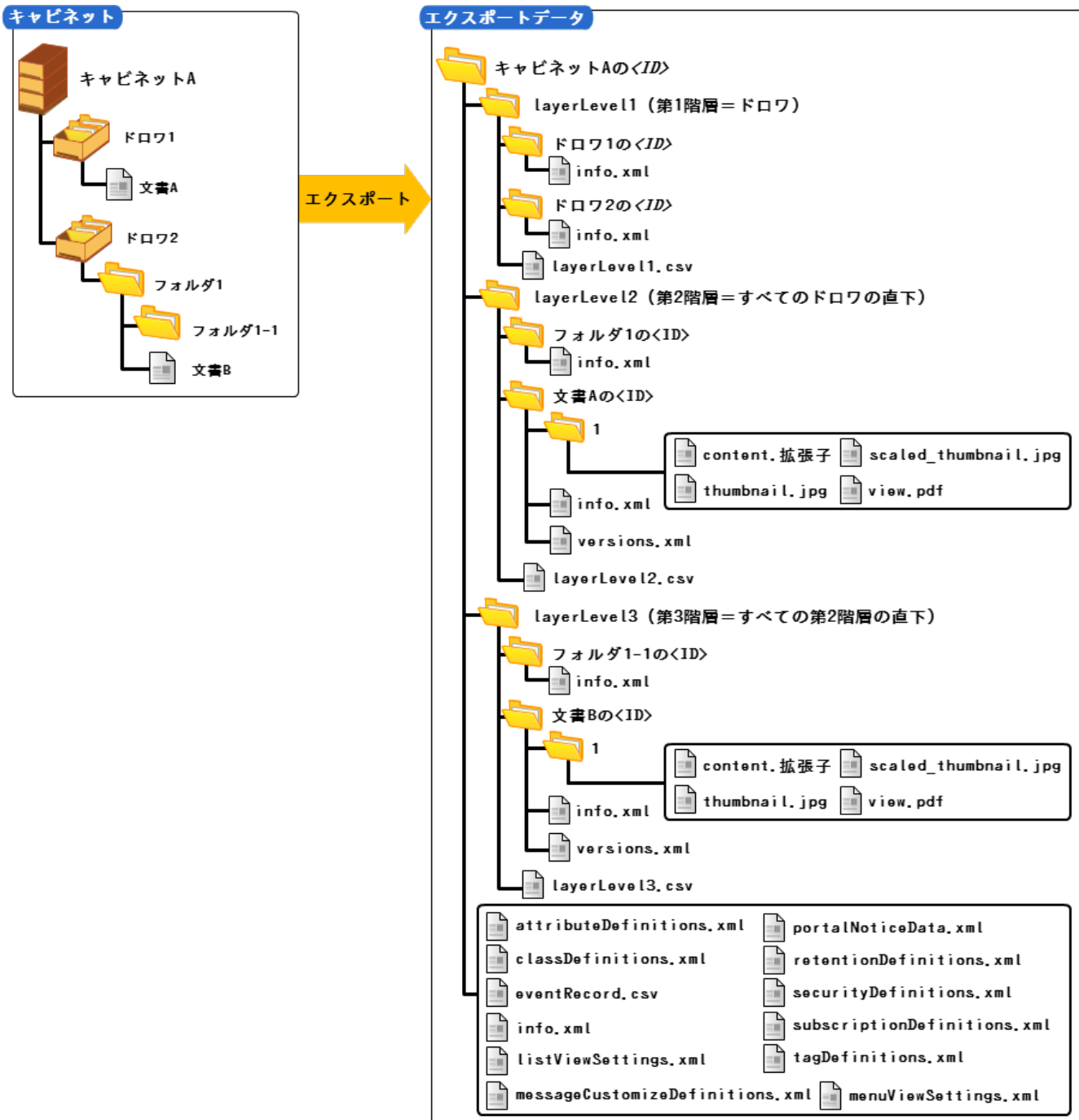
### コラム

全文検索インデックスについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」を参照してください。

エクスポートデータについて説明します。

## エクスポートデータのフォルダ構成

キャビネットをエクスポートすると、指定したディレクトリに以下のエクスポートデータが作成されます。



### **i** コラム

#### <ID>について

各<ID>は、記号に「:」を使用しています。(例「kn:cabinet-cabinet-1000001」)

ただし、フォルダ名になる<ID>では、ファイルシステムにより「:」の文字は使用できないため、「#」を使用しています。

(例「kn#cabinet-cabinet-1000001」)

他のシステムからインポート用のデータを生成する際には、ご注意ください。

- 「キャビネットの<ID>」フォルダ直下

フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
layerLevel(n) (n=階層数)	フォルダ	オブジェクトの情報がエクスポートされます。 「layerLevel1」フォルダには、第1階層として、すべてのドロワの情報がエクスポートされます。 「layerLevel2」フォルダには、第2階層として、すべてのドロワ直下のオブジェクトの情報がエクスポートされます。 「layerLevel3」フォルダ以降は、オブジェクトの情報が階層ごとにエクスポートされます。
attributeDefinitions.xml	ユーザ属性定義ファイル	キャビネットに定義されたすべてのユーザ属性定義（属性ID、属性型、言語ごとの属性の名前、言語ごとの属性の説明、属性の候補値、属性のデフォルト値）が記録されます。
classDefinitions.xml	クラス定義ファイル	キャビネットに定義された以下のシステム定義クラスとすべてのユーザ定義クラス（クラスID、基本クラスのID、クラスに割り当てられたユーザ属性のID、言語ごとのクラスの名前、言語ごとのクラスの説明、バージョン表示設定、属性表示設定）が記録されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ドロワ</li> <li>■ フォルダ</li> <li>■ 検索フォルダ</li> <li>■ IM-WorkFlow連携フォルダ</li> <li>■ 文書</li> <li>■ セキュア文書</li> </ul>
eventRecord.csv	操作履歴ファイル	キャビネットの操作履歴が記録されます。
info.xml	キャビネット定義ファイル	キャビネット内の以下の情報が記録されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システム属性</li> <li>■ 制限値に関する情報</li> </ul>
menuViewSettings.xml	メニュー表示設定ファイル	キャビネットに定義されたメニュー表示設定が記録されます。
messageCustomizeDefinitions.xml	メッセージカスタマイズ定義ファイル	キャビネットに定義されたメッセージカスタマイズ定義が記録されます。
portalNoticeData.xml	ポータル通知定義ファイル	キャビネットに定義されたすべてのポータル通知設定が記録されます。 キャビネットにポータル通知設定がない場合は、エクスポートされません。
securityDefinitions.xml	セキュリティ定義ファイル	キャビネットに定義されたセキュリティ定義が記録されます。
retentionDefinitions.xml	保管定義ファイル	キャビネットに定義された保管定義が記録されます。
listViewSettings.xml	一覧表示設定ファイル	キャビネットに定義された一覧表示設定が記録されます。
subscriptionDefinitions.xml	モニタ定義ファイル	キャビネットに定義されたすべてのモニタ通知設定が記録されます。 キャビネットにモニタ定義がない場合は、エクスポートされません。
tagDefinitions.xml	タグ定義ファイル	キャビネットに定義されたすべてのタグ定義が記録されます。 キャビネットにタグ定義がない場合は、エクスポートされません。

- 「layerLevel1」フォルダ直下



フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
ドロワの<ID>	フォルダ	「layerLevel1」直下に、各階層のドロワの情報がエクスポートされます。
layerLevel1.csv	オブジェクトの階層情報定義ファイル	「layerLevel1」フォルダにあるすべてのドロワの階層の情報が記録されます。

■ 「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダ直下

フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
フォルダ、文書の<ID>	フォルダ	「layerLevel(n)」 (n=階層数) 直下に、各階層のフォルダ、文書の情報がエクスポートされます。
layerLevel(n).csv (n=階層数)	オブジェクトの階層情報定義ファイル	「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダにあるすべてのフォルダ、文書の階層の情報が記録されます。

■ 「ドロワの<ID>」 フォルダ直下

フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
info.xml	ドロワ文書情報ファイル	「ドロワの<ID>」フォルダ内には、以下の情報が記録されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オブジェクトID</li> <li>■ システム属性</li> <li>■ アクセス権</li> <li>■ モニタ設定情報</li> </ul>

■ 「フォルダの<ID>」 フォルダ直下

フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
「フォルダ、文書の<ID>」フォルダ	フォルダ	「フォルダの<ID>」フォルダ直下のフォルダ、または文書の情報が記録されたフォルダがエクスポートされます。
info.xml	フォルダ情報ファイル	「フォルダの<ID>」フォルダ内には、以下の情報が記録されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オブジェクトID</li> <li>■ システム属性、ユーザ属性</li> <li>■ アクセス権</li> <li>■ タグ設定情報</li> <li>■ 検索式 (検索フォルダの場合)</li> </ul>
versions.xml	バージョン情報ファイル	文書、セキュア文書の、すべてのバージョンのコンテンツが保持するシステム属性、およびユーザ属性が記録されます。

■ 「文書の<ID>」 フォルダ直下

フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
1~n (n=バージョン番号)	フォルダ	文書、セキュア文書のバージョンごとのコンテンツ、および派生コンテンツがエクスポートされます。
info.xml	文書情報ファイル	「文書の<ID>」フォルダ内には、以下の文書の情報が記録されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オブジェクトID</li> <li>■ システム属性、ユーザ属性</li> <li>■ アクセス権</li> <li>■ タグ設定情報</li> <li>■ 公開文書設定情報</li> </ul>
versions.xml	バージョン情報ファイル	文書、セキュア文書の、すべてのバージョンのコンテンツが保持するシステム属性、およびユーザ属性が記録されます。

- 「1~(n)」 (n=バージョン番号) フォルダ直下

フォルダ、ファイル名	フォルダ、ファイルの種類	説明
layerLevel(n).csv (n=階層数)	オブジェクトの階層情報定義ファイル	「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダにあるすべてのオブジェクトの階層の情報が記録されます。
content.拡張子	コンテンツファイル	登録した文書がエクスポートされます。登録した文書と同じ拡張子になります。
thumbnail.jpg scaled_thumbnail.jpg	派生コンテンツファイル	登録した文書のサムネイルファイル(thumbnail.jpg)と、サイズ変更可能なサムネイル画像に加工したファイル(scaled_thumbnail.jpg)がエクスポートされます。サムネイルが作成される文書の拡張子は、.xdw、.pdf、.tiff、.jpgです。
view.pdf	派生コンテンツファイル	登録したセキュア文書のセキュアダウンロード用のPDFファイルがエクスポートされます。セキュアダウンロードを実行していない場合は、エクスポートされません。

## CSVファイル

エクスポートされるCSVファイルについて説明します。

### 目次

- オブジェクトの階層情報定義ファイル (layerLevel(n).csv)
- 操作履歴ファイル (eventRecord.csv)

### オブジェクトの階層情報定義ファイル (layerLevel(n).csv)

「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダにエクスポートされるCSVファイルです。オブジェクトの階層情報が記録されています。

列数	項目	説明
1	ignoreFlag	内部的に使用する列です。必ず、空白にしてください。
2	parentObjectId	「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダにエクスポートされたオブジェクト (ドロー、フォルダ、または文書) が登録されているキャビネット、ドロー、またはフォルダのIDです。
3	childObjectId	「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダにエクスポートされたオブジェクト (ドロー、フォルダ、または文書) のIDです。
4	childObjectName	「layerLevel(n)」 (n=階層数) フォルダにエクスポートされたオブジェクト (ドロー、フォルダ、または文書) 名です。

### 操作履歴ファイル (eventRecord.csv)

キャビネットフォルダ内にエクスポートされるCSVファイルです。キャビネット内のオブジェクトに対する操作履歴の情報が記録されています。

列数	項目	説明
1	eventType	操作種別
2	operationDate	操作日時
3	operatorId	操作者のID
4	targetObjectId	対象オブジェクトのID
5	clientType	操作クライアントのタイプを示す文字列
6	clientAddress	操作クライアントのIPアドレス
7	targetPrincipalId	対象ユーザのID

列数	項目	説明
8	targetPrincipalName	対象ユーザの名前
9	targetPrincipalLoginName	対象ユーザのログイン名
10	targetObjectName	対象オブジェクト名
11	parentObjectId	対象オブジェクトの親のID
12	parentObjectName	対象オブジェクトの親の名前
13	bulkRootObjectId	一括処理のルートオブジェクトのID
14	bulkRootObjectName	一括処理のルートオブジェクトの名前
15	childObjectId	対象オブジェクトの子のID
16	childObjectName	対象オブジェクトの子の名前
17	targetVersionId	対象のバージョンのID
18	targetVersionLatest	対象のバージョンが最新かどうかのフラグ
19	tagId	対象タグのID
20	tagName	対象タグの名前
21	shareInformationObjctId	公開情報のID
22	targetSubscriptionName	モニタ名
23	securityDefinitionId	セキュリティ定義のID
24	relateTargetClassId	対象クラスのID
25	retentionDefinitionId	保管定義のID
26	applicationEventType	操作履歴に記録する操作のタイプ
27	applicationEventTarget	操作履歴に記録する操作の対象

記録される操作とCSVファイルの「eventType」列に記録される操作種別は、以下の通りです。

オブジェクト	記録される操作	操作種別
ドロー、フォルダ、文書など オブジェクト共通	作成	「kn:OBJECT_CREATED」 「kn:OBJECT_CHILD_ADDED」（親に対する操作履歴）
	属性更新	「kn:OBJECT_ATTRIBUTES_CHANGED」
	アクセス権更新	「kn:OBJECT_ACL_CHANGED」
フォルダ、文書共通	コピー	「kn:OBJECT_COPIED」 「kn:OBJECT_CHILD_ADDED」（親に対する操作履歴）
	移動	「kn:OBJECT_MOVED」 「kn:OBJECT_CHILD_REMOVE」（移動元の親に対する操作履歴）
		「kn:OBJECT_CHILD_ADDED」（移動先の親に対する操作履歴）
		「kn:OBJECT_DISUSED」 「kn:OBJECT_CHILD_REMOVE」（親に対する操作履歴）
	ごみ箱への投入	「kn:OBJECT_DISUSED」 「kn:OBJECT_CHILD_REMOVE」（親に対する操作履歴）
	ごみ箱からの復元	「kn:OBJECT_REUSED」 「kn:OBJECT_CHILD_ADDED」（親に対する操作履歴）
		「kn:OBJECT_REMOVED」
文書	チェックアウト	「kn:DOCUMENT_LOCKED」
	チェックイン（バージョン追加）	「kn:DOCUMENT_VERSION_CREATED」

オブジェクト	記録される操作	操作種別
	バージョン削除	「kn:DOCUMENT_VERSION_REMOVED」
	文書内容（コンテンツ）取得	「kn:DOCUMENT_CONTENT_GOT」（ストレージ文書） 「kn:SHARED_DOCUMENT_CONTENT_GOT」（公開文書）
	文書のセキュアコンテンツ取得	「kn:DOCUMENT_SECURE_CONTENT_GOT」（ストレージ文書） 「kn:SHARED_DOCUMENT_SECURE_CONTENT_GOT」（公開文書）
	文書公開	「kn:DOCUMENT_SHARING_STARTED」
	文書公開の中止	「kn:DOCUMENT_SHARING_SUSPENDED」 「kn:DOCUMENT_SHARING_CANCELED」（公開情報の削除）
	保管設定の変更	「kn:RETENTION_SETTING_CHANGED」
	文書タイムスタンプ付与	「kn:CERT_DOCUMENT_TIMESTAMP_ATTACHED」
	アーカイブタイムスタンプ付与	「kn:CERT_ARCHIVE_TIMESTAMP_ATTACHED」
	タイムスタンプ検証	「kn:CERT_TIMESTAMP_VALIDATED」
	タイムスタンプ対象解除	「kn:CERT_TARGET_FLAG_REMOVED」
	タイムスタンプ対象設定	「kn:CERT_TARGET_FLAG_SETTED」
フォルダ	一覧表示設定の割当	「kn:APPLICATION_EVENT」（アプリケーション固有操作） <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ： set_list_view_setting</li> <li>イベント対象： [フォルダの識別子文字列]</li> </ul>
	メニュー表示設定の割当	「kn:APPLICATION_EVENT」（アプリケーション固有操作） <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ： set_menu_view_setting</li> <li>イベント対象： [フォルダの識別子文字列]</li> </ul>
	フロー一覧表示設定の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」（アプリケーション固有操作） <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ： update_flow_view_setting</li> <li>イベント対象： [IM-Workflo連携フォルダの識別子文字列]</li> </ul>
タグ操作情報	タグ作成	「kn:OBJECT_CREATED」
	タグ削除	「kn:OBJECT_REMOVED」
	タグ付与	「kn:ATTACH_TAG」
	タグ除去	「kn:DETTACH_TAG」
モニタ設定情報	モニタ設定の作成	「kn:SUBSCRIPTION_CREATED」
	モニタ設定の変更	「kn:SUBSCRIPTION_ATTRIBUTES_CHANGED」
	モニタ設定対象の変更	「kn:SUBSCRIPTION_OBJECTS_CHANGE」
	モニタ設定の削除	「kn:SUBSCRIPTION_REMOVED」
キャビネット	キャビネット属性の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」（アプリケーション固有操作） <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ： update_cabinet_setting</li> <li>イベント対象： [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>
	キャビネット管理者の追加	「kn:APPLICATION_EVENT」（アプリケーション固有操作） <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ： add_cabinet_administrators</li> <li>イベント対象： [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>

オブジェクト	記録される操作	操作種別
キャビネット	キャビネット管理者の削除	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: remove_cabinet_administrators</li> <li>イベント対象: [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>
	キャビネット利用者の追加	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: add_cabinet_users</li> <li>イベント対象: [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>
	キャビネット利用者の削除	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: remove_cabinet_users</li> <li>イベント対象: [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>
ドロワ	一覧表示設定の割当	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: set_list_view_setting</li> <li>イベント対象: [ドロワの識別子文字列]</li> </ul>
	メニュー表示設定の割当	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: set_menu_view_setting</li> <li>イベント対象: [ドロワの識別子文字列]</li> </ul>
セキュリティ定義情報	セキュリティ定義作成	「kn:SECURITY_DEFINITION_CREATED」
	セキュリティ定義変更	「kn:SECURITY_DEFINITION_ALTERED」
	セキュリティ定義削除	「kn:SECURITY_DEFINITION_REMOVED」
	セキュリティ定義とクラス定義の関連付	「kn:SECURITY_DEFINITION_RELATED」
	デフォルトセキュリティ定義の変更	「kn:DEFAULT_SECURITY_DEFINITION_CHANGED」
保管定義情報	保管定義作成	「kn:RETENTION_DEFINITION_CREATED」
	保管定義変更	「kn:RETENTION_DEFINITION_ALTERED」
	保管定義削除	「kn:RETENTION_DEFINITION_REMOVED」
	保管定義とクラス定義の関連付	「kn:RETENTION_DEFINITION_RELATED」
属性定義情報	属性定義作成	「system:ATTRIBUTE_DEFINITION_CREATED」
	属性定義変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_attribute</li> <li>イベント対象: [属性定義の識別子文字列]</li> </ul> 「system:ATTRIBUTE_DEFINITION_ALTERED」
	属性定義削除	「system:ATTRIBUTE_DEFINITION_REMOVED」
	属性定義の候補値変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_attribute_candidate</li> <li>イベント対象: [属性定義の識別子文字列]</li> </ul>
クラス定義情報	クラス定義作成	「system:CLASS_DEFINITION_CREATED」
	クラス定義変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_class</li> <li>イベント対象: [クラス定義の識別子文字列]</li> </ul>
	属性定義の割当	「system:CLASS_DEFINITION_ALTERED」
	クラス定義削除	「system:CLASS_DEFINITION_REMOVE」
	クラス定義の属性表示設定の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_class_attribute_view_setting</li> <li>イベント対象: [クラス定義の識別子文字列]</li> </ul>

オブジェクト	記録される操作	操作種別
	クラス定義のバージョン設定の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_class_version_setting</li> <li>イベント対象: [クラス定義の識別子文字列]</li> </ul>
操作履歴情報	操作履歴の削除	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: remove_record</li> <li>イベント対象: [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>
公開定義情報	公開定義の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_share_setting</li> <li>イベント対象: [キャビネットの識別子文字列]</li> </ul>
メッセージカスタマイズ情報	メッセージテンプレートの変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_message_template</li> <li>イベント対象: [メッセージテンプレートのIDの文字列]</li> </ul>
一覧表示設定情報	一覧表示設定の作成	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: create_list_view_setting</li> <li>イベント対象: [一覧表示設定の識別子文字列]</li> </ul>
	一覧表示設定の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_list_view_setting</li> <li>イベント対象: [一覧表示設定の識別子文字列]</li> </ul>
	一覧表示設定の削除	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: delete_list_view_setting</li> <li>イベント対象: [一覧表示設定の識別子文字列]</li> </ul>
メニュー表示設定情報	メニュー表示設定の作成	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: create_menu_view_setting</li> <li>イベント対象: [メニュー表示設定の識別子文字列]</li> </ul>
	メニュー表示設定の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: update_menu_view_setting</li> <li>イベント対象: [メニュー表示設定の識別子文字列]</li> </ul>
	メニュー表示設定の削除	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: delete_menu_view_setting</li> <li>イベント対象: [メニュー表示設定の識別子文字列]</li> </ul>
	デフォルトのメニュー表示設定の変更	「kn:APPLICATION_EVENT」 (アプリケーション固有操作) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントタイプ: set_default_menu_view_setting</li> <li>イベント対象: [メニュー表示設定の識別子文字列]</li> </ul>

### コラム

一部の操作履歴は、インポートの対象外です。  
詳細は、「[制限事項](#)」を参照してください。

## XMLファイル

エクスポートデータとしてエクスポートされるXMLファイルについて説明します。

### XMLの表記方法

名前空間

XMLファイルの要素の名前空間は、無名の名前空間です。

## 属性ID、属性値のXML表記方法

- 属性IDのXML要素

属性IDは、要素の「id」属性に指定し、要素名に、属性IDの要素型に応じた名前を指定します。  
要素型に応じた属性IDのXML表記は、以下の通りです。

属性IDの要素型	XML表記
単値文字列型	< stringAttributeValue id="属性ID">
単値真偽型	< booleanAttributeValue id="属性ID">
単値整数型	< integerValue id="属性ID">
単値長整数型	< longAttributeValue id="属性ID">
単値固定小数点型	< bigDecimalAttributeValue id="属性ID">
単値UGID識別子型	< ugidAttributeValue id="属性ID">
単値日時型	< dateAttributeValue id="属性ID">
多値文字列型	< stringListAttributeValue id="属性ID">
多値真偽型	< booleanListAttributeValue id="属性ID">
多値整数型	< integerListAttributeValue id="属性ID">
多値長整数型	< longListAttributeValue id="属性ID">
多値固定小数点型	< bigDecimalListAttributeValue id="属性ID">
多値UGID識別子型	< ugidListAttributeValue id="属性ID">
多値日時型	< dateListAttributeValue id="属性ID">

- 属性値に指定可能な値

属性値を表記する場合、属性ID要素の直下に<value>要素を指定し、<value>要素のテキスト要素に具体的な値を指定します。

属性値	値	制限
文字列型	文字列	2,000文字以内（合成文字、サロゲートペアは2文字とカウントされます）
真偽型	真偽値を指定する	「true」または「false」
整数型	32bit整数	-2,147,483,648~2,147,483,647
長整数型	64bit整数	-9,223,372,036,854,775,808~9,223,372,036,854,775,807
単値固定小数点型	精度が36で位置取りが18の符号付き固定小数点	- 999,999,999,999,999,999.999999999999999999 ~ 999,999,999,999,999,999.999999999999999999
UGID識別子型	サブジェクト（ユーザ、グループ、会社など）の識別子	
日時型	年（yyyy）、月（MM）、日（dd）、時（HH）、分（mm）、秒（ss）、ミリ秒（SSS）を指定する。	「yyyy/MM/dd HH:mm:ss.SSS」形式。タイムゾーンは指定できません。

 コラム

## 属性IDと属性値のXML記述例

- 単値整数型属性の場合

```
<integerAttributeValue id="属性ID">
  <value>属性値</value>
</integerAttributeValue>
```

- 多値文字列型属性の場合

```
<stringListAttributeValue id="属性ID">
  <value>属性値</value>
  <value>属性値</value>
</stringListAttributeValue>
```

## &lt;object&gt;要素の表記方法

1つのオブジェクト（キャビネット、ドロワ、フォルダ、文書）は<object>要素で表現します。<object>要素には、以下の属性が指定できます。

属性	説明												
objectId	オブジェクトのIDを表す文字列です。「classId」+「数値」で表現されます。（必須）												
classId	オブジェクトのクラスを表す文字列です。オブジェクトの種類に応じて、以下の値からいずれかを設定します。（必須）												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>オブジェクトの種類</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キャビネット</td> <td>kn:cabinet</td> </tr> <tr> <td>ドロワ</td> <td>kn:publicDrawer</td> </tr> <tr> <td>フォルダ</td> <td>kn:folder（フォルダの場合）、kn:queryFolder（検索フォルダの場合）、kn:workflowFolder（IM-WorkFlow連携フォルダの場合）</td> </tr> <tr> <td>文書</td> <td>kn:document（文書の場合）、kn:secureDocument（セキュア文書の場合）</td> </tr> <tr> <td>ユーザ定義クラス</td> <td>knc_doc:&lt;クラスID&gt;（kn:document、kn:secureDocumentからの派生クラスの場合）、knc_fol:&lt;クラスID&gt;（kn:folderからの派生クラスの場合）</td> </tr> </tbody> </table>		オブジェクトの種類	値	キャビネット	kn:cabinet	ドロワ	kn:publicDrawer	フォルダ	kn:folder（フォルダの場合）、kn:queryFolder（検索フォルダの場合）、kn:workflowFolder（IM-WorkFlow連携フォルダの場合）	文書	kn:document（文書の場合）、kn:secureDocument（セキュア文書の場合）	ユーザ定義クラス	knc_doc:<クラスID>（kn:document、kn:secureDocumentからの派生クラスの場合）、knc_fol:<クラスID>（kn:folderからの派生クラスの場合）
オブジェクトの種類	値												
キャビネット	kn:cabinet												
ドロワ	kn:publicDrawer												
フォルダ	kn:folder（フォルダの場合）、kn:queryFolder（検索フォルダの場合）、kn:workflowFolder（IM-WorkFlow連携フォルダの場合）												
文書	kn:document（文書の場合）、kn:secureDocument（セキュア文書の場合）												
ユーザ定義クラス	knc_doc:<クラスID>（kn:document、kn:secureDocumentからの派生クラスの場合）、knc_fol:<クラスID>（kn:folderからの派生クラスの場合）												
repositoryVersionId	リポジトリバージョンを表す文字列です。キャビネットの場合のみ指定します。本バージョンは「1.2」です。												
rootClassId	オブジェクトの派生元クラスを表す文字列です。オブジェクトがドロワ、フォルダ、文書、ユーザ定義クラスの場合に設定します。オブジェクトの種類に応じて、以下のいずれかを設定します。												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>オブジェクトの種類</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ドロワ</td> <td>kn:publicDrawer</td> </tr> <tr> <td>フォルダ</td> <td>kn:folder（フォルダの場合）、kn:queryFolder（検索フォルダの場合）、kn:workflowFolder（IM-WorkFlow連携フォルダの場合）</td> </tr> <tr> <td>文書</td> <td>kn:document（文書の場合）、kn:secureDocument（セキュア文書の場合）</td> </tr> <tr> <td>ユーザ定義クラス</td> <td>kn:folder（フォルダを基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）、kn:document（文書を基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）、kn:secureDocument（セキュア文書を基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）</td> </tr> </tbody> </table>		オブジェクトの種類	値	ドロワ	kn:publicDrawer	フォルダ	kn:folder（フォルダの場合）、kn:queryFolder（検索フォルダの場合）、kn:workflowFolder（IM-WorkFlow連携フォルダの場合）	文書	kn:document（文書の場合）、kn:secureDocument（セキュア文書の場合）	ユーザ定義クラス	kn:folder（フォルダを基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）、kn:document（文書を基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）、kn:secureDocument（セキュア文書を基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）		
オブジェクトの種類	値												
ドロワ	kn:publicDrawer												
フォルダ	kn:folder（フォルダの場合）、kn:queryFolder（検索フォルダの場合）、kn:workflowFolder（IM-WorkFlow連携フォルダの場合）												
文書	kn:document（文書の場合）、kn:secureDocument（セキュア文書の場合）												
ユーザ定義クラス	kn:folder（フォルダを基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）、kn:document（文書を基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）、kn:secureDocument（セキュア文書を基本クラスとするユーザ定義クラスの場合）												

<object>要素の中で定義する要素について説明します。



目次

- <acl>要素
- <shareAcl>要素
- <attributeValues>要素
- <contentSizeLimit>要素
- <searchResultLimit>要素
- <expiredDocumentSetting>要素
- <grantAdminRoleForCreator>要素
- <objectListViewSetting>要素
- <objectMenuViewSetting>要素
- <flowViewSetting>要素
- <queryCondition>要素
- <shareInformations>要素

<acl>要素

要素の階層

```
<acl>
  <ace>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<acl>	0~1	オブジェクトに設定されたアクセス権エントリーのリストを表す要素です。オブジェクトがドロワ、フォルダ、文書の場合に指定できます。オブジェクトにアクセス権が設定されていない場合、エクスポートデータには<acl />と出力されます。
<ace>	1~100	<acl>要素の子要素で、アクセス権のエントリーを表す要素です。

<shareAcl>要素

要素の階層

```
<shareAcl>
  <ace>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<shareAcl>	0~1	オブジェクトに設定された共有アクセス権エントリーのリストを表す要素です。オブジェクトにアクセス権が設定されていない場合、エクスポートデータには<shareAcl />と出力されます。
<ace>	1~100	<shareAcl>要素の子要素で、アクセス権のエントリーを表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。

属性	説明
principalId	アクセス権を割り当て対象となる、ユーザ、グループ、ロール、会社、役職です（必須）。UGID識別子を指定します。
permission	許可された操作を表す文字列です（必須）。いずれか1つを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 管理権が許可されている場合：admin</li> <li>▪ 書き込み権が許可されている場合：write</li> <li>▪ 読み込み権が許可されている場合：read</li> </ul>

<attributeValues>要素

要素	指定可能な要素数	説明
----	----------	----

要素	指定可能な要素数	説明
<attributeValues>	0~1	<p>オブジェクトに設定されている属性値のリストを表す要素です。属性は指定しません。この要素の直下にシステム属性、ユーザ属性を指定します。</p> <p>オブジェクトの種類によって、指定できるシステム属性とユーザ属性が指定できるかどうか異なります。</p> <p>指定できるシステム属性については、「<a href="#">属性</a>」を参照してください。</p> <p>指定できるユーザ属性は、フォルダと文書のみです。（キャビネットとドロワは指定できません）</p> <p>属性IDと属性値のXML表記方法は、「<a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a>」を参照してください。</p>

<contentSizeLimit>要素

要素	指定可能な要素数	説明
<contentSizeLimit>		<p>キャビネットに登録できるコンテンツサイズの上限を表す要素です。テキスト要素に値を指定します。指定可能な値の範囲は0~9,223,372,036,854,775,807byteです。</p> <p>キャビネットの設定をデフォルトの設定から変更していない場合は、エクスポートされません。</p>

<searchResultLimit>要素

要素	指定可能な要素数	説明
<searchResultLimit>	0~1	<p>検索結果の最大取得件数の最大数を表す要素です。（必須）</p> <p>この要素に属性は指定できません。</p> <p>この要素のテキスト要素に値を指定します。</p> <p>キャビネットの設定をデフォルトの設定から変更していない場合は、エクスポートされません。</p>

<expiredDocumentSetting>要素

要素の階層

```
<expiredDocumentSetting>
  <displayExpiredDocument>
  <expiredDocumentSettingModifiedDate>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<expiredDocumentSetting>	0~1	<p>期限切れの文書表示設定を表す要素です。</p> <p>この要素に属性は指定できません。</p>
<displayExpiredDocument>	1	<p>&lt;expiredDocumentSetting&gt;要素の子要素で、期限切れ文書を一覧に表示するかどうかを要素です。期限切れ文書を一覧にする場合は「true」、一覧にしない場合は「false」を指定します。</p>
<expiredDocumentSettingModifiedDate>	1	<p>&lt;expiredDocumentSetting&gt;要素の子要素で、期限切れ文書表示設定の更新日時を表す要素です。</p>

<grantAdminRoleForCreator>要素

要素	指定可能な要素数	説明
<grantAdminRoleForCreator>	0~1	<p>ドロワの下に作成されるフォルダ、および文書の作成者に、管理者権限を付与するかどうかを指定する要素です。</p> <p>この要素に属性は指定できません。</p> <p>この要素のテキスト要素に値を指定します。作成者に管理者権限を付与する場合は「true」、付与しない場合は「false」を指定します。</p>

<objectListViewSetting>要素

要素の階層

```
<objectListViewSetting>
  <default>
  <settings>
    <setting>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<objectListViewSetting>	0~1	一覧表示設定を表す要素です。 この要素に属性は指定できません。
<default>	1	<objectListViewSetting>要素の子要素で、デフォルトの一覧表示設定を表す要素です。 この要素のテキスト要素に値を指定します。
<settings>	1	<objectListViewSetting>要素の子要素で、対象のオブジェクトに割り当てる一覧表示設定のリストを表す要素です。
<setting>	1~5	<settings>要素の子要素で、対象のオブジェクトに割り当てる一覧表示設定のリストを表す要素です。 この要素のテキスト要素に値を指定します。

<objectMenuViewSetting>要素

要素	指定可能な要素数	説明				
<objectMenuViewSetting>	0~1	メニュー表示設定を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>設定されているメニュー表示設定のIDを指定します（必須）。</td> </tr> </tbody> </table>			属性	説明	id	設定されているメニュー表示設定のIDを指定します（必須）。
属性	説明					
id	設定されているメニュー表示設定のIDを指定します（必須）。					

<flowViewSetting>要素

要素の階層

```
<flowViewSetting>
  <upload>
    <item>
  <checkin>
    <item>
  <del>
    <item>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<flowViewSetting>	0~1	フロー一覧表示設定を表す要素です。 この要素に属性は指定できません。
<upload>	1	<flowViewSetting>要素の子要素で、アップロードワークフロー用一覧表示設定を表す要素です。
<checkin>	1	<flowViewSetting>要素の子要素で、チェックインワークフロー用一覧表示設定を表す要素です。
<del>	1	<flowViewSetting>要素の子要素で、削除ワークフロー用一覧表示設定を表す要素です。
<item>	0~10	<upload>要素、<checkin>要素、<del>要素の子要素で、1つのフローを表す要素です。 この要素のテキスト要素にフローIDを指定します。 値の文字列は、20文字以内である必要があります。

要素の階層

```
<queryCondition>
  <value>
  <scopeld>
  <targetClassList>
    <targetClass>
  <specifiedClassList>
    <targetClass>
  <searchCondList>
    <searchCond>
      <value>
      <type>
      <startDate>
      <endDate>
      <startValue>
      <startOperator>
      <endValue>
      <endOperator>
      <label>
```

要素	指定可能な要素数	説明				
<queryCondition>	0~1	検索フォルダの検索条件を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>searchType</td> <td>検索条件を表す文字列です。以下の値のどちらかを指定します。           <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 簡易検索 : simple</li> <li>▪ 詳細検索 : advance</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>			属性	説明	searchType	検索条件を表す文字列です。以下の値のどちらかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 簡易検索 : simple</li> <li>▪ 詳細検索 : advance</li> </ul>
属性	説明					
searchType	検索条件を表す文字列です。以下の値のどちらかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 簡易検索 : simple</li> <li>▪ 詳細検索 : advance</li> </ul>					
<value>	0~1	<queryCondition>要素の子要素で、検索対象の値を表す要素です。検索条件が簡易検索の場合に指定します。				
<scopeld>	0~1	<queryCondition>要素の子要素で、検索範囲を表す要素です。検索条件が詳細検索の場合に指定します。 指定できる属性は、以下の通りです。				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>objectId</td> <td>検索範囲の中で最上位階層に位置するオブジェクトIDを指定します。 キャビネット、ドロワ、フォルダのオブジェクトIDが指定できます。</td> </tr> </tbody> </table>			属性	説明	objectId	検索範囲の中で最上位階層に位置するオブジェクトIDを指定します。 キャビネット、ドロワ、フォルダのオブジェクトIDが指定できます。
属性	説明					
objectId	検索範囲の中で最上位階層に位置するオブジェクトIDを指定します。 キャビネット、ドロワ、フォルダのオブジェクトIDが指定できます。					
<targetClassList>	0~1	<queryCondition>要素の子要素で、検索対象のオブジェクトのクラスのリストを表す要素です。検索条件が詳細検索の場合に指定します。				
<targetClass>	0~2	<targetClassList>要素の子要素で、検索式を表す要素です。 テキスト要素に検索対象のオブジェクトのクラスタイプ（文書、またはフォルダ）を表す文字列に、以下の値のどちらか1つを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ フォルダ : folder</li> <li>▪ 文書 : document</li> </ul>				
<specifiedClassList>	0~1	<queryCondition>要素の子要素で、検索対象のオブジェクトのクラス識別子リストを表す要素です。検索条件が、詳細検索の場合にのみ指定します。				
<targetClassId>	0~300	<specifiedClassList>要素の子要素で、検索対象のオブジェクトのクラス識別子リストを表す要素です。 この要素のテキスト要素に値を指定します。				
<searchCondList>	0~1	<queryCondition>要素の子要素で、検索式のリストを表す要素です。				

要素	指定可能な要素数	説明						
<searchCond>	1~50	<searchCondList>要素の子要素で、1つの検索式を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>attributeld</td> <td>検索対象の属性のIDを指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>operation</td> <td>検索式を指定します。日付検索以外の場合に指定できます。下の値のいずれか1つを指定します。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ EQ (等しい) 使用できる属性型は、文字列型、真偽値型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ CON (含む) 使用できる属性型は、文字列型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NE (等しくない) 使用できる属性型は、文字列型、真偽値型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NCON (含まない) 使用できる属性型は、文字列型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ CONUP (含む、階層をたどる) 使用できる属性型は、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NCONUP (含まない、階層をたどる) 使用できる属性型は、UGID識別子型です。</li> <li>▪ GT (より大きい) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ GE (以上) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ LT (より小さい) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ LE (以下) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ NULL (値なし) 使用できる属性型は、文字列型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NNULL (値あり) 使用できる属性型は、文字列型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>			属性	説明	attributeld	検索対象の属性のIDを指定します。(必須)	operation	検索式を指定します。日付検索以外の場合に指定できます。下の値のいずれか1つを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ EQ (等しい) 使用できる属性型は、文字列型、真偽値型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ CON (含む) 使用できる属性型は、文字列型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NE (等しくない) 使用できる属性型は、文字列型、真偽値型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NCON (含まない) 使用できる属性型は、文字列型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ CONUP (含む、階層をたどる) 使用できる属性型は、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NCONUP (含まない、階層をたどる) 使用できる属性型は、UGID識別子型です。</li> <li>▪ GT (より大きい) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ GE (以上) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ LT (より小さい) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ LE (以下) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ NULL (値なし) 使用できる属性型は、文字列型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NNULL (値あり) 使用できる属性型は、文字列型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> </ul>
属性	説明							
attributeld	検索対象の属性のIDを指定します。(必須)							
operation	検索式を指定します。日付検索以外の場合に指定できます。下の値のいずれか1つを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ EQ (等しい) 使用できる属性型は、文字列型、真偽値型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ CON (含む) 使用できる属性型は、文字列型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NE (等しくない) 使用できる属性型は、文字列型、真偽値型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NCON (含まない) 使用できる属性型は、文字列型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ CONUP (含む、階層をたどる) 使用できる属性型は、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NCONUP (含まない、階層をたどる) 使用できる属性型は、UGID識別子型です。</li> <li>▪ GT (より大きい) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ GE (以上) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ LT (より小さい) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ LE (以下) 使用できる属性型は、整数型、長整数型、固定小数点型です。</li> <li>▪ NULL (値なし) 使用できる属性型は、文字列型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> <li>▪ NNULL (値あり) 使用できる属性型は、文字列型、整数型、長整数型、固定小数点型、UGID識別子型です。</li> </ul>							
<value>		<searchCond>要素の子要素で、検索値を表す要素です。 日付検索以外の場合に指定します。						
<type>		<searchCond>要素の子要素で、日時型検索の種類を表します。 日付検索の場合に指定します。日付型検索の種類に応じて、以下の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 直接指定の場合 : direct</li> <li>▪ 相対指定の場合 : relative</li> <li>▪ 値なし : NULL</li> <li>▪ 値あり : NNULL</li> </ul>						
<startDate>		<searchCond>要素の子要素で、日時検索の開始日時を表します。 直接指定の日付検索の場合に指定します。フォーマットは「yyyy-mm-dd」です。						
<endDate>		<searchCond>要素の子要素で、日時検索の終了日時を表します。 直接指定の日付検索の場合に指定します。フォーマットは「yyyy-mm-dd」です。						
<startValue>		<searchCond>要素の子要素で、検索期間の開始日を表します。 相対指定の日付検索の場合に現在の日付に対して何日前、何日後かを数字で指定します。						
<startOperator>		<searchCond>要素の子要素で、<startValue>要素で指定された値が「何日前」、または「何日後」なのかを表します。 「何日前」の場合は「ago」を指定し、「何日後」の場合は「later」を指定します。						

要素	指定可能な要素数	説明
<endValue>		<searchCond>要素の子要素で、検索期間の終了日を表します。 相対指定の日付検索の場合に相対値で指定します。
<endOperator>		<searchCond>要素の子要素で、<endValue>要素で指定された値が「何日前」、または「何日後」なのかを表します。 「何日前」の場合は「ago」を指定し、「何日後」の場合は「later」を指定します。
<label>		<searchCond>要素の子要素で、<value>要素がUgId型の場合に、ラベル文字列を指定します。

### コラム

- 検索の条件や条件の数は、インポート時に、形式のチェックや制限値のチェックは実施されず、指定された値がそのままインポートされます。  
 指定に誤りがあった場合は、インポートはできますが、検索を実施した際（検索フォルダを開いた場合）にエラーになることがあります。

 コラム
**<queryCondition>**要素のXML記述例

- 簡易検索の場合

```
<queryCondition searchType="simple">
  <value>KAWA</value>
</queryCondition>
```

- 詳細検索（文字列型検索）の場合

```
<queryCondition searchType="advance">
  <scopeld>kn:publicDrawer-10</scopeld>
  <targetClassList>
    <targetClass>folder</targetClass>
  </targetClassList>
  <searchCondList>
    <searchCond attributeld="kn-objectName" operation="CON">
      <value>A</value>
    </searchCond>
  </searchCondList>
</queryCondition>
```

- 詳細検索（日付型検索：直接指定）の場合（作成日が2013/04/01から2013/04/12までの文書を検索する場合）

```
<queryCondition searchType="advance">
  <scopeld>kn:publicDrawer-20</scopeld>
  <targetClassList>
    <targetClass>document</targetClass>
  </targetClassList>
  <searchCondList>
    <searchCond attributeld="kn-createdDate">
      <type>direct</type>
      <startDate>2013-04-01</startDate>
      <endDate>2013-04-12</endDate>
    </searchCond>
  </searchCondList>
</queryCondition>
```

- 詳細検索（日付型検索：相対指定）の場合（作成日が5日前から7日後までの文書を検索する場合）

```
<queryCondition searchType="advance">
  <scopeld>kn:publicDrawer-30</scopeld>
  <targetClassList>
    <targetClass>document</targetClass>
  </targetClassList>
  <searchCondList>
    <searchCond attributeld="kn-createdDate">
      <type>relative</type>
      <startValue>5</startValue>
      <startOperator>ago</startOperator>
      <endValue>7</endValue>
      <endOperator>lator</endOperator>
    </searchCond>
  </searchCondList>
</queryCondition>
```

**<shareInformations>**要素

## 要素の階層

```
<shareInformations>
  <shareInformation>
    <attributeValues>
    <noticeInformation>
    <attributeValues>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<shareInformations>	0～1	文書の公開情報のリストを表す要素です。オブジェクトが文書の場合に指定します。
<shareInformation>	1～ 2,147,483,647	<shareInformations>要素の子要素で、1つの公開文書情報を表す要素です。
<attributeValues>		<shareInformation>要素の子要素で、文書の公開情報の属性値を指定する要素です。 この要素に属性は指定できません。 この要素の子要素に公開文書情報の属性を指定します。 属性IDと属性値のXML表記方法は、「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 指定可能な属性は、「 <a href="#">公開文書情報に関する属性</a> 」を参照してください。
<noticeInformation>		<shareInformation>要素の子要素で、通知に関する設定情報を表す要素です。
<attributeValues>		<noticeInformation>要素の子要素で、文書の公開情報の属性値を指定する要素です。 この要素に属性は指定できません。 この要素の子要素に、公開文書情報の属性を指定します。 属性IDと属性値のXML表記方法は、「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 指定可能な属性は、「 <a href="#">公開文書情報に関する属性</a> 」を参照してください。

## 定義ファイル

### キャビネット定義ファイル (info.xml)

<object>がキャビネットの情報を表現するXMLのルート要素で、1つのキャビネットを表します。  
要素の記述方法は、「[<object>要素の表記方法](#)」を参照してください。

#### コラム

##### info.xmlの記述例

```
<object objectId="kn:cabinet-001" classId="kn:cabinet" repositoryVersionId="1.1">
  <attributeValues>
    ... // システム属性のXML表記
  </attributeValues>
  <contentSizeLimit>52488000</contentSizeLimit>
  <searchResultLimit>1000</searchResultLimit>
</object>
```

### ユーザ属性定義ファイル (attributeDefinitions.xml)

#### 要素の階層

```
<attributeDefinitions>
  <attributeDefinition>
    <names>
      <displayName>
        <value>
      </displayName>
    </names>
    <descriptions>
      <displayName>
        <value>
      </displayName>
    </descriptions>
    <attributeValues>
    <candidates>
      <candidate>
    </candidate>
    <defaultValue>
```



要素	指定可能な要素数	説明																		
<attributeDefinitions>		キャビネットに定義された、ユーザ属性を表すXMLのルート要素です。属性は指定できません。																		
<attributeDefinition>	1~300	<p>&lt;attributeDefinitions&gt;要素の子要素で、1つのユーザ属性定義を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>属性IDです。(必須)</td> </tr> <tr> <td>type</td> <td>属性型です。(必須) 指定できる値は以下の通りです。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文字列型の場合：string</li> <li>■ 真偽値型の場合：boolean</li> <li>■ 整数型の場合：integer</li> <li>■ 長整数型の場合：long</li> <li>■ UGID型の場合：ugid</li> <li>■ 日付型の場合：date</li> <li>■ 固定小数点型の場合：bigdecimal</li> </ul>                             上記以外の属性型が指定された場合は、エラーになります。                         </td> </tr> <tr> <td>searchable</td> <td>検索可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。</td> </tr> <tr> <td>versionable</td> <td>バージョン管理可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。</td> </tr> <tr> <td>sortable</td> <td>ソート可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。</td> </tr> <tr> <td>visible</td> <td>表示可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。</td> </tr> <tr> <td>minMultiplicity</td> <td>属性値の最小個数です。この値が1以上の場合には、必須属性となります。</td> </tr> <tr> <td>maxMultiplicity</td> <td>属性値の最大個数です。この値が2以上の場合には、多値属性となります。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	属性IDです。(必須)	type	属性型です。(必須) 指定できる値は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文字列型の場合：string</li> <li>■ 真偽値型の場合：boolean</li> <li>■ 整数型の場合：integer</li> <li>■ 長整数型の場合：long</li> <li>■ UGID型の場合：ugid</li> <li>■ 日付型の場合：date</li> <li>■ 固定小数点型の場合：bigdecimal</li> </ul> 上記以外の属性型が指定された場合は、エラーになります。	searchable	検索可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。	versionable	バージョン管理可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。	sortable	ソート可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。	visible	表示可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。	minMultiplicity	属性値の最小個数です。この値が1以上の場合には、必須属性となります。	maxMultiplicity	属性値の最大個数です。この値が2以上の場合には、多値属性となります。
属性	説明																			
id	属性IDです。(必須)																			
type	属性型です。(必須) 指定できる値は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文字列型の場合：string</li> <li>■ 真偽値型の場合：boolean</li> <li>■ 整数型の場合：integer</li> <li>■ 長整数型の場合：long</li> <li>■ UGID型の場合：ugid</li> <li>■ 日付型の場合：date</li> <li>■ 固定小数点型の場合：bigdecimal</li> </ul> 上記以外の属性型が指定された場合は、エラーになります。																			
searchable	検索可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。																			
versionable	バージョン管理可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。																			
sortable	ソート可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。																			
visible	表示可能な属性として指定する場合は「true」、指定しない場合は「false」を指定します。																			
minMultiplicity	属性値の最小個数です。この値が1以上の場合には、必須属性となります。																			
maxMultiplicity	属性値の最大個数です。この値が2以上の場合には、多値属性となります。																			
<names>	0~1	<attributeDefinition>要素の子要素で、言語ごとのユーザ属性の名前を表す要素です。属性は指定できません。																		
<displayName>	0~4	<p>&lt;names&gt;要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>														
属性	説明																			
locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>																			
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。																		
<descriptions>	0~1	<attributeDefinition>要素の子要素で、言語ごとのユーザ属性の説明を表す要素です。属性は指定できません。																		

要素	指定可能な要素数	説明						
<displayName>	0～3	<p>&lt;descriptions&gt;要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul>		
属性	説明							
locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul>							
<value>	1	<p>&lt;displayName&gt;要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。</p>						
<attributeValues>	0～1	<p>&lt;attributeDefinition&gt;要素の子要素で、属性定義をインポートした結果として操作履歴に記録される「作成者」、および「作成日時」を指定する要素です。子要素に「作成者(kn:creatorId)」、および「作成日時(kn:createdDate)」を指定します。属性IDと属性値のXML表記方法は、「<a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a>」を参照してください。文書管理リポジトリに記録されている操作履歴の中に、対応する「ユーザ属性定義の作成」操作が存在しない場合、エクスポートされません。</p>						
<candidates>	0～1	<p>&lt;attributeDefinition&gt;要素の子要素で、属性の候補値リストを表す要素です。属性の「type」がstring、integer、long、bigdecimalの場合のみ指定できます。</p>						
<candidate>	0～20	<p>&lt;candidates&gt;要素の子要素で、属性の候補値リストを表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>value</td> <td>候補値を文字列で指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>index</td> <td>インデックス値(何番目の候補値か)を0～19の数値で指定します。(必須)</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	value	候補値を文字列で指定します。(必須)	index	インデックス値(何番目の候補値か)を0～19の数値で指定します。(必須)
属性	説明							
value	候補値を文字列で指定します。(必須)							
index	インデックス値(何番目の候補値か)を0～19の数値で指定します。(必須)							
<defaultValue>	0～1	<p>&lt;attributeDefinition&gt;要素の子要素で、属性のデフォルト値を表す要素です。属性は指定できません。</p>						
<defaultValueString>	0～1	<p>&lt;defaultValue&gt;要素の子要素で、文字列型のデフォルト値を表す要素です。この要素の指定方法は単値文字列型の属性値と同様です。「<a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a>」を参照してください。属性の「type」がstringの場合のみ指定可能です。</p>						
<defaultValueBoolean>	0～1	<p>&lt;defaultValue&gt;要素の子要素で、真偽型のデフォルト値を表す要素です。この要素の指定方法は単値真偽型の属性値と同様です。「<a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a>」を参照してください。属性の「type」がbooleanの場合のみ指定可能です。</p>						
<isCreateDate>	0～1	<p>&lt;defaultValue&gt;要素の子要素で、日付型の属性において作成日をデフォルト値とすることを表す要素です。この要素のテキスト要素に値を指定します。作成日をデフォルト値とする場合「true」、そうでない場合「false」を指定します。属性の「type」がdateの場合のみ指定可能です。値が「false」の場合は、defaultValueDateを指定する必要があります。</p>						
<defaultValueDate>	0～1	<p>&lt;defaultValue&gt;要素の子要素で、日付型のデフォルト値を表す要素です。この要素の指定方法は単値日付型の属性値と同様です。「<a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a>」を参照してください。属性の「type」がdateで、かつ、&lt;isCreateDate&gt;が指定されていて、かつ、その値が「false」の場合のみ指定可能です。</p>						

要素	指定可能な要素数	説明
<defaultValueInteger>	0~1	<defaultValue>要素の子要素で、整数型のデフォルト値を表す要素です。 この要素の指定方法は単値整数型の属性値と同様です。「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 属性の「type」がintegerの場合のみ指定可能です。
<defaultValueLong>	0~1	<defaultValue>要素の子要素で、長整数型のデフォルト値を表す要素です。 この要素の指定方法は単値長整数型の属性値と同様です。「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 属性の「type」がlongの場合のみ指定可能です。
<defaultValueBigDecimal>	0~1	<defaultValue>要素の子要素で、固定小数点型のデフォルト値を表す要素です。 この要素の指定方法は単値固定小数点型の属性値と同様です。「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 属性の「type」がbigdecimalの場合のみ指定可能です。
<isRegisteredUgId>	0~1	<defaultValue>要素の子要素で、操作ユーザをデフォルト値とするかどうかを表す要素です。 この要素のテキスト要素に値を指定します。操作ユーザをデフォルト値とする場合「true」、そうでない場合「false」を指定します。 属性の「type」がugidの場合のみ指定可能です。 値が「false」の場合は、defaultValueUgIdを指定する必要があります。
<defaultValueUgId>	0~1	<defaultValue>要素の子要素で、UG識別子型のデフォルト値を表す要素です。 この要素の指定方法は単値UGID識別子型の属性値と同様です。「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 属性の「type」がugidで、かつ、<isRegisteredUgId>が指定されていて、かつ、その値が「false」の場合のみ指定可能です。

## コラム

### attributeDefinitions.xmlの記述例

```

<attributeDefinitions>
  <attributeDefinition id="knc_attr:userStringAttr" type="string">
    <names>
      <displayName locale="ja">
        <value>文字列型属性</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>String Attribute</value>
      </displayName>
    </names>
    <descriptions>
      <displayName locale="ja">
        <value>文字列型属性です</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>This is a String Attribute</value>
      </displayName>
    </descriptions>
    <candidates>
      <candidate value="候補値1" index="0"/>
      <candidate value="候補値2" index="1"/>
    </candidates>
    <defaultValue>
      <defaultValueString id="knc_attr:userStringAttr">
        <value>デフォルト値</value>
      </defaultValueString>
    </defaultValue>
  </attributeDefinition>
</attributeDefinitions>

```

キャビネットに定義された、すべてのセキュリティ定義を表すXMLファイルです。

要素の階層

```
<securityDefinitions>
  <securityDefinition>
    <names>
      <displayName>
        <value>
      <ownerPassword>
      <requiredOpenPassword>
      <printRestriction>
      <copyRestriction>
      <textAccessRestriction>
      <expirationDate>
      <downloadRestriction>
      <targetClassIds>
      <targetClass>
```

要素	指定可能な要素数	説明								
<securityDefinitions>		キャビネットに定義された、すべてのセキュリティ定義を表すXMLのルート要素です。属性は指定できません。								
<securityDefinition>	1~200	<p>&lt;securityDefinitions&gt;要素の子要素で、1つのセキュリティ定義を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>セキュリティ定義のIDを指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>type</td> <td>セキュリティ定義のタイプを指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>isDefault</td> <td>デフォルトのセキュリティ定義かどうかを指定します。デフォルトの場合は「true」、デフォルトではない場合は「false」を指定します。指定しない場合は「false」になります。複数の&lt;securityDefinition&gt;要素がある場合は、2つ以上の要素に「true」を指定できません。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	セキュリティ定義のIDを指定します。(必須)	type	セキュリティ定義のタイプを指定します。(必須)	isDefault	デフォルトのセキュリティ定義かどうかを指定します。デフォルトの場合は「true」、デフォルトではない場合は「false」を指定します。指定しない場合は「false」になります。複数の<securityDefinition>要素がある場合は、2つ以上の要素に「true」を指定できません。
属性	説明									
id	セキュリティ定義のIDを指定します。(必須)									
type	セキュリティ定義のタイプを指定します。(必須)									
isDefault	デフォルトのセキュリティ定義かどうかを指定します。デフォルトの場合は「true」、デフォルトではない場合は「false」を指定します。指定しない場合は「false」になります。複数の<securityDefinition>要素がある場合は、2つ以上の要素に「true」を指定できません。									
<names>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、言語ごとのセキュリティ定義名を表す要素です。								
<displayName>	0~4	<p>&lt;names&gt;要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ローケルを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ローケルを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul>				
属性	説明									
locale	ローケルを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul>									
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。								
<ownerPassword>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、権限パスワードを表す要素です。この要素に属性は指定できません。テキスト要素に、パスワードを文字列で指定します。								

要素	指定可能な要素数	説明
<requiredOpenPassword>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、文書を開く際にパスワードを要求するかどうかを表す要素です。 テキスト要素に、パスワードを要求する場合は「true」、要求しない場合は「false」を指定します。
<printRestriction>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、プリント制限を表す要素です。 属性は指定できません。 制限に応じて、下記の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 許可：ENABLE</li> <li>▪ 禁止：DISABLE</li> <li>▪ 低解像度で許可：LOW RESOLUTION</li> </ul>
<copyRestriction>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、コピー制限を表す要素です。 属性は指定できません。 制限に応じて、下記の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 許可：ENABLE</li> <li>▪ 禁止：DISABLE</li> </ul>
<textAccessRestriction>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、スクリーンリーダーデバイスによるテキストアクセスに関する制限を表す要素です。 属性は指定できません。 制限に応じて、下記の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 許可：ENABLE</li> <li>▪ 禁止：DISABLE</li> </ul>
<expirationDate>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、セキュアダウンロードしてから内容を確認できるまでの日数を表す要素です。 属性は指定できません。 この要素に日数を数値で指定します。
<downloadRestriction>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、ダウンロード制限を表す要素です。 属性は指定できません。 制限に応じて、下記の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 許可：ENABLE</li> <li>▪ 禁止：DISABLE</li> </ul>
<targetClassIds>	0~1	<securityDefinition>要素の子要素で、保管責任者のパスワードを表す要素です。 属性は指定できません。
<targetClass>	0~500	<targetClassIds>要素の子要素で、1つのクラスを表す要素です。



コラム

## securityDefinitions.xmlの記述例

```
<securityDefinitions>
  <securityDefinition id="kn:securityDefinition" type="pdf">
    <names>
      <displayName locale="ja">
        <value>セキュリティ定義001</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>SecurityDefinition001</value>
      </displayName>
    </names>
    <ownerPassword>FX12345</ownerPassword>
    <requiredOwnerPassword>true</requiredOwnerPassword>
    <printRestriction>DISABLE</printRestriction>
    <changeRestriction>ENABLE</changeRestriction>
    <copyRestriction>ENABLE</copyRestriction>
    <textRestriction>ENABLE</textRestriction>
    <expirationDate>3</expirationDate>
    <downloadRestriction>ENABLE</downloadRestriction>
    <targetClassIds>
      <targetClass>knc_doc:userClass1</targetClass>
      <targetClass>knc_doc:userClass2</targetClass>
    </targetClassIds>
  </securityDefinition>
</securityDefinitions>
```

## 保管定義ファイル (retentionDefinitions.xml)

キャビネットに定義された、すべての保管定義を表すXMLファイルです。

## 要素の階層

```
<retentionDefinitions>
  <retentionDefinition>
    <names>
      <displayName>
    </configurationLevel>
    <restrictDeletion>
    <restrictExpiredDocumentOperations>
    <acceptExtentionPeriod>
    <defaultOwners>
      <defaultOwner>
    </retentionPeriodInitialDateType>
    <firstMonthOfBusinessYear>
    <defaultRetentionPeriod>
    <defaultRetentionPeriodUnit>
    <defaultCertTarget>
    <noticeDaysBefore>
    <noticeMethods>
      <noticeMethod>
    </ownerOfCopyDestination>
    <retentionPeriodOfCopyDestination>
    <targetClassIds>
      <targetClass>
```

要素	指定可能な要素数	説明
<retentionDefinitions>		キャビネットに定義された、すべての保管定義を表すXMLのルート要素です。 属性は指定できません。

要素	指定可能な要素数	説明						
<retentionDefinition>	1~200	<p>&lt;retentionDefinitions&gt;要素の子要素で、1つの保管定義を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>クラス定義のIDを指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>isDefault</td> <td>デフォルトの保管定義がどうかを指定します。(必須) デフォルトの場合は「true」、デフォルトでない場合は「false」を指定します。 指定しない場合は、「false」になります。 複数の&lt;retentionDefinition&gt;要素がある場合は、2つ以上の要素に「true」を指定できません。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	クラス定義のIDを指定します。(必須)	isDefault	デフォルトの保管定義がどうかを指定します。(必須) デフォルトの場合は「true」、デフォルトでない場合は「false」を指定します。 指定しない場合は、「false」になります。 複数の<retentionDefinition>要素がある場合は、2つ以上の要素に「true」を指定できません。
属性	説明							
id	クラス定義のIDを指定します。(必須)							
isDefault	デフォルトの保管定義がどうかを指定します。(必須) デフォルトの場合は「true」、デフォルトでない場合は「false」を指定します。 指定しない場合は、「false」になります。 複数の<retentionDefinition>要素がある場合は、2つ以上の要素に「true」を指定できません。							
<names>	0~1	<retentionDefinition>要素の子要素で、言語ごとのクラス定義名を表す要素です。						
<displayName>	0~4	<p>&lt;names&gt;要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>		
属性	説明							
locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>							
<configurationLevel>	1	<p>&lt;retentionDefinition&gt;要素の子要素で、設定レベルを表す要素です。属性は指定できません。指定できる値は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設定追加不可：NOT_CONFIGURABLE</li> <li>■ 設定追加可：CONFIGURABLE</li> <li>■ 設定追加を強制：FORCE</li> </ul>						
<restrictDeletion>	1	<p>&lt;retentionDefinition&gt;要素の子要素で、削除を制限するかどうかを表す要素です。制限する場合は「true」、制限しない場合は「false」を指定します。</p>						
<restrictExpiredDocumentOperations>	1	<p>&lt;retentionDefinition&gt;要素の子要素で、期限切れ文書に対する操作を制限するかどうかを表す要素です。制限する場合は「true」、制限しない場合は「false」を指定します。</p>						
<acceptExtentionPeriod>	1	<p>&lt;retentionDefinition&gt;要素の子要素で、期限延長を許可するかどうかを表す要素です。制限する場合は「true」、制限しない場合は「false」を指定します。</p>						
<defaultOwners>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、デフォルトの保管責任者リストを表す要素です。						
<defaultOwner>	1~5	<p>&lt;defaultOwners&gt;要素の子要素で、保管責任者の1つのエントリーを表す要素です。テキスト要素に、保管責任者を表すUGIDの識別子文字列を指定します。</p>						
<retentionPeriodInitialDateType>	1	<p>&lt;retentionDefinition&gt;要素の子要素で、保管期間の起算日タイプを表す要素です。指定できる値は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文書作成日：DOCUMENT_CREATED_DATE</li> <li>■ 今年度の開始日：DOCUMENT_CREATED_DATE</li> <li>■ 翌年度の開始日：FIRST_DAY_OF_NEXT_BUSINESS_YEAR</li> </ul>						

要素	指定可能な要素数	説明
<firstMonthOfBusinessYear>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、年度の開始月を表す要素です。 テキスト要素に、年度の開始月を1~12の数値で指定します。
<defaultRetentionPeriod>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、デフォルト保管期間を表す要素です。 属性は指定できません。 テキスト要素に、文書作成日から保管期限日までの期間を1~999の数値で指定します。
<defaultRetentionPeriodUnit>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、デフォルト保管期間単位を表す要素です。 指定できる値は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 年：YEAR</li> <li>■ 月：MONTH</li> <li>■ 日：DAY</li> </ul>
<defaultCertTarget>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、デフォルトタイムスタンプ設定を表す要素です。 文書登録時にデフォルトでタイムスタンプ設定を表示する場合は「true」、そうでない場合は「false」を指定します。
<noticeDaysBefore>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、期限切れ予告通知日を表す要素です。 属性は指定できません。 テキスト要素に、期限切れの何日前に予告通知するかを0~365の数値で指定します。
<noticeMethods>	0~1	<retentionDefinition>要素の子要素で、通知方法のリストを表す要素です。 属性は指定できません。
<noticeMethod>	0~3	<noticeMethods>要素の子要素で、通知方法のリストを表す要素です。 属性は指定できません。 指定できる値は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ メール：MAIL</li> <li>■ ポートレット：PORTAL</li> <li>■ IMBox：BOX</li> </ul>
<ownerOfCopyDestination>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、コピー先の保管責任者を表す要素です。 属性は指定できません。 指定できる値は、以下の通りです。デフォルトの保管責任者リストが指定されていない場合は、「DEFAULT」を指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルト値：DEFAULT</li> <li>■ 操作者：OPERATOR</li> <li>■ コピー元の値：VALUE_OF_SOURCE</li> </ul>
<retentionPeriodOfCopyDestination>	1	<retentionDefinition>要素の子要素で、コピー先の保管期限日を表す要素です。 属性は指定できません。 指定できる値は、以下の通りです。デフォルトの保管期限日が指定されていない場合は、「DEFAULT」を指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルト値：DEFAULT</li> <li>■ コピー元の値：VALUE_OF_SOURCE</li> </ul>
<targetClassIds>	0~1	<retentionDefinition>要素の子要素で、保管定義を設定するクラスのリストを表す要素です。 属性は指定できません。
<targetClass>	0~500	<targetClassIds>要素の子要素で、1つのクラスを表す要素です。



 コラム

## retentionDefinitions.xmlの記述例

```

<retentionDefinitions>
  <retentionDefinition isDefault="true">
    <names>
      <displayName locale="ja">
        <value>保管定義001</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>RetentionDefinition001</value>
      </displayName>
    </names>
    <configurationLevel>FORCE</configurationLevel>
    <restrictDeletion>true</restrictDeletion>
    <restrictExpiredDocumentOperations>true</restrictExpiredDocumentOperations>
    <acceptExtentionPeriod>true</acceptExtentionPeriod>
    <defaultOwners>
      <defaultOwner>kn_user:hayashi</defaultOwner>
      <defaultOwner>kn_user:aoyagi</defaultOwner>
    </defaultOwners>
    <retentionPeriodInitialDateType>DOCUMENT_CREATED_DATE</retentionPeriodInitialDateType>
    <firstMonthOfBusinessYear>4</firstMonthOfBusinessYear>
    <defaultRetentionPeriod>1</defaultRetentionPeriod>
    <defaultRetentionPeriodUnit>YEAR</defaultRetentionPeriodUnit>
    <defaultCertTarget>true</defaultCertTarget>
    <noticeDaysBefore>10</noticeDaysBefore>
    <noticeMethods>
      <noticeMethod>MAIL</noticeMethod>
      <noticeMethod>BOX</noticeMethod>
    </noticeMethods>
    <ownerOfCopyDestination>DEFAULT</ownerOfCopyDestination>
    <retentionPeriodOfCopyDestination>DEFAULT</retentionPeriodOfCopyDestination>
    <targetClassIds>
      <targetClass>kn:document</targetClass>
      <targetClass>kn:secureDocument</targetClass>
    </targetClassIds>
  </retentionDefinition>
</retentionDefinitions>

```

## 一覧表示設定ファイル (listViewSettings.xml)

キャビネットに定義された、すべての一覧表示設定を表すXMLファイルです。

## 要素の階層

```

<listViewSettings>
  <listViewSetting>
    <names>
      <displayName>
    </displayName>
    <descriptions>
      <displayName>
    </displayName>
    <items>
      <item>
    </item>
    <sorts>
      <sort>
    </sort>
  </listViewSetting>
</listViewSettings>

```

要素	指定可能な要素数	説明
<listViewSettings>		キャビネットに定義された、すべての一覧表示設定を表すXMLのルート要素です。属性は指定できません。

要素	指定可能な要素数	説明						
<listViewSetting>	0~200	<listViewSettings>要素の子要素で、1つの一覧表示設定を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>一覧表示設定のIDを指定します。(必須)</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	一覧表示設定のIDを指定します。(必須)		
属性	説明							
id	一覧表示設定のIDを指定します。(必須)							
<names>	0~1	<listViewSetting>要素の子要素で、言語ごとの一覧表示設定名を表す要素です。						
<displayName>	0~4	<names>要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。   <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>		
属性	説明							
locale	ロケールを表す文字列を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>							
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。						
<descriptions>	0~1	<listViewSetting>要素の子要素で、言語ごとの一覧表示設定の説明を表す要素です。						
<displayName>	0~4	<descriptions>要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。   <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>		
属性	説明							
locale	ロケールを表す文字列を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合：default</li> <li>■ 日本語の場合：ja</li> <li>■ 英語の場合：en</li> <li>■ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>							
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。						
<items>	1	<listViewSetting>要素の子要素で、一覧表示設定の表示項目を表す要素です。						
<item>	1~300	<items>要素の子要素で、1つの表示項目を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>表示項目の属性識別子文字列を指定します。</td> </tr> <tr> <td>width</td> <td>表示項目の表示幅を、10~600の数値で指定します。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	表示項目の属性識別子文字列を指定します。	width	表示項目の表示幅を、10~600の数値で指定します。
属性	説明							
id	表示項目の属性識別子文字列を指定します。							
width	表示項目の表示幅を、10~600の数値で指定します。							
<sorts>	0~1	<listViewSetting>要素の子要素で、一覧表示設定のソート条件を表す要素です。						

要素	指定可能な要素数	説明								
<sort>	0～3	<sorts>要素の子要素で、1つのソート項目を表す要素です。属性の識別子を指定します。指定できる属性は、以下の通りです。								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>ソート項目の属性識別子文字列を指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>index</td> <td>インデックス値(何番目のソートか)を1～3の数値で指定します。(必須)</td> </tr> <tr> <td>order</td> <td>ソート項目の順序を指定します。(必須) 指定できる値は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>昇順 : asc</li> <li>降順 : desc</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	ソート項目の属性識別子文字列を指定します。(必須)	index	インデックス値(何番目のソートか)を1～3の数値で指定します。(必須)	order	ソート項目の順序を指定します。(必須) 指定できる値は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>昇順 : asc</li> <li>降順 : desc</li> </ul>
属性	説明									
id	ソート項目の属性識別子文字列を指定します。(必須)									
index	インデックス値(何番目のソートか)を1～3の数値で指定します。(必須)									
order	ソート項目の順序を指定します。(必須) 指定できる値は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>昇順 : asc</li> <li>降順 : desc</li> </ul>									

## コラム

### listViewSettings.xmlの記述例

```
<listViewSettings>
  <listViewSetting id="listView001">
    <names>
      <displayName locale="ja">
        <value>一覧表示設定001</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>SecutrityDefinition001</value>
      </displayName>
    </names>
    <descriptions>
      <displayName locale="ja">
        <value>一覧表示設定の説明</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>List View Setting Description</value>
      </displayName>
    </descriptions>
    <items>
      <itemid="kn:objectName" width="300" />
      <itemid="kn:description" width="500" />
    </items>
    <sorts>
      <sortid="kn:objectName" index="0" order="asc" />
      <sortid="kn:modifiedDate" index="1" order="desc" />
    </sorts>
  </listViewSetting>
</listViewSettings>
```

### メニュー表示設定ファイル (menuViewSettings.xml)

キャビネットに定義された、すべてのメニュー表示設定を表すXMLファイルです。

### 要素の階層

```

<menuViewSettings>
  <menuViewSetting>
    <names>
      <displayName>
    <descriptions>
      <displayName>
    <items>
      <batchOperation>
        <item>
      <createFolder>
        <item>
      <createDocument>
        <item>
      <createSecureDocument>
        <item>
      <drawerOperation>
        <item>
      <folderOperation>
        <item>
      <documentOperation>
        <item>
      <secureDocumentOperation>
        <item>
      <attributeCondition>
        <item>
      <classCondition>
        <item>

```

要素	指定可能な要素数	説明				
<menuViewSettings>		キャビネットに定義された、すべてのメニュー表示設定を表すXMLのルート要素です。 属性は指定できません。				
<menuViewSetting>	1~20	<menuViewSettings>要素の子要素で、1つのメニュー表示設定を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>メニュー表示設定のIDを指定します。(必須)</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	メニュー表示設定のIDを指定します。(必須)
属性	説明					
id	メニュー表示設定のIDを指定します。(必須)					
<names>	0~1	<menuViewSetting>要素の子要素で、言語ごとのメニュー表示設定名を表す要素です。				
<displayName>	0~4	<names>要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。   <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合 : default</li> <li>■ 日本語の場合 : ja</li> <li>■ 英語の場合 : en</li> <li>■ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合 : default</li> <li>■ 日本語の場合 : ja</li> <li>■ 英語の場合 : en</li> <li>■ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul>
属性	説明					
locale	ロケールを表す文字列を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合 : default</li> <li>■ 日本語の場合 : ja</li> <li>■ 英語の場合 : en</li> <li>■ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul>					
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。 属性は指定できません。				
<descriptions>	0~1	<menuViewSetting>要素の子要素で、言語ごとのメニュー表示設定の説明を表す要素です。				

要素	指定可能な要素数					
	要素数	説明				
<displayName>	0~4	<p>&lt;descriptions&gt;要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 標準表示名の場合：default</li> <li>▪ 日本語の場合：ja</li> <li>▪ 英語の場合：en</li> <li>▪ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 標準表示名の場合：default</li> <li>▪ 日本語の場合：ja</li> <li>▪ 英語の場合：en</li> <li>▪ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>
属性	説明					
locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 標準表示名の場合：default</li> <li>▪ 日本語の場合：ja</li> <li>▪ 英語の場合：en</li> <li>▪ 中国語の場合：zh_CN</li> </ul>					
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。				
<items>	1	<menuViewSetting>要素の子要素で、メニュー表示設定の表示項目を表す要素です。				
<batchOperation>	1	<items>要素の子要素で、一括操作のメニュー表示設定を表す要素です。				
<createFolder>	1	<items>要素の子要素で、新規登録(フォルダ)のメニュー表示設定を表す要素です。				
<createDocument>	1	<items>要素の子要素で、新規登録(文書)のメニュー表示設定を表す要素です。				
<createSecureDocument>	1	<items>要素の子要素で、新規登録(セキュア文書)のメニュー表示設定を表す要素です。				
<drawerOperation>	1	<items>要素の子要素で、ドロワ操作のメニュー表示設定を表す要素です。				
<folderOperation>	1	<items>要素の子要素で、フォルダ操作のメニュー表示設定を表す要素です。				
<documentOperation>	1	<items>要素の子要素で、文書操作のメニュー表示設定を表す要素です。				
<secureDocumentOperation>	1	<items>要素の子要素で、セキュア文書操作のメニュー表示設定を表す要素です。				
<attributeCondition>	1	<items>要素の子要素で、検索条件属性のメニュー表示設定を表す要素です。				
<classCondition>	1	<items>要素の子要素で、検索対象クラスのメニュー表示設定を表す要素です。				

要素	指定可能な要素数	説明
<item>	右表を参照	以下の要素の子要素で、1つの表示項目を表す要素です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ &lt;batchOperation&gt;</li> <li>▪ &lt;createFolder&gt;</li> <li>▪ &lt;createDocument&gt;</li> <li>▪ &lt;createSecureDocument&gt;</li> <li>▪ &lt;drawerOperation&gt;</li> <li>▪ &lt;folderOperation&gt;</li> <li>▪ &lt;documentOperation&gt;</li> <li>▪ &lt;secureDocumentOperation&gt;</li> <li>▪ &lt;attributeCondition&gt;</li> <li>▪ &lt;classCondition&gt;</li> </ul>

指定できる最小数、最大数、メニュー項目は、以下の通りです。

メニューの種類	最小数	最大数	メニュー項目
一括操作	0	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 削除 : remove</li> <li>▪ 移動 : move</li> <li>▪ コピー : copy</li> <li>▪ ダウンロード : download</li> <li>▪ 属性CSV出力 : output_attr</li> <li>▪ 属性CSV取り込み : import_attr</li> <li>▪ タイムスタンプ検証 : validateTimestamp</li> </ul>
新規登録(フォルダ)	0	500	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ フォルダ : kn-folder</li> <li>▪ WF連携フォルダ : kn-workflowFolder</li> <li>▪ (フォルダ系ユーザ定義クラス) : knc_fol-??????</li> </ul>
新規登録(文書)	0	500	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 文書 : kn-document</li> <li>▪ (文書系ユーザ定義クラス) : knc_fol-??????</li> </ul>
新規登録(セキュア文書)	0	500	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ セキュア文書 : kn-secureDocument</li> <li>▪ (セキュア文書系ユーザ定義クラス) : knc_doc-??????</li> </ul>
ドロワ操作	0	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 属性編集/属性表示 : attr</li> <li>▪ アクセス権 : access</li> <li>▪ モニタ設定 : monitor</li> <li>▪ 一覧表示設定 : list_view_setting</li> <li>▪ メニュー表示設定 : menu_view_setting</li> </ul>

要素	指定可能な要素数	説明 ニューの種類	最小数	最大数	メニュー項目
		フォルダ操作	0	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 属性編集/属性表示 : attr</li> <li>■ アクセス権 : access</li> <li>■ タグ : tag</li> <li>■ モニタ設定 : monitor</li> <li>■ 一覧表示設定 : list_view_setting</li> <li>■ メニュー表示設定 : menu_view_setting</li> <li>■ フロー一覧表示設定 : flow_view_setting</li> </ul>
		文書操作	0	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 属性編集/属性表示 : attr</li> <li>■ ダウンロード : download</li> <li>■ チェックアウト/チェックイン : checkout_checkin</li> <li>■ 文書公開 : document_sharing</li> <li>■ 文書公開(ゲスト) : guest_sharing</li> <li>■ バージョン : version</li> <li>■ アクセス権 : access</li> <li>■ 操作履歴 : operation_history</li> <li>■ タグ : tag</li> </ul>
		セキュア文書操作	0	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 属性編集/属性表示 : attr</li> <li>■ ダウンロード : download</li> <li>■ チェックアウト/チェックイン : checkout_checkin</li> <li>■ 文書公開 : document_sharing</li> <li>■ 文書公開(ゲスト) : guest_sharing</li> <li>■ バージョン : version</li> <li>■ アクセス権 : access</li> <li>■ 操作履歴 : operation_history</li> <li>■ タグ : tag</li> </ul>

要素	指定可能な要素数	説明	ニューの種類	最小数	最大数	メニュー項目
		検索条件属性		0	500	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 名前 : kn-objectName</li> <li>■ 作成者 : kn-creatorName</li> <li>■ 更新者 : kn-modifierName</li> <li>■ ワークフロー案件 : kn-workflowMatter</li> <li>■ 検証ステータス : kn-certValidationStatus</li> <li>■ ハッシュアルゴリズム : kn-hashAlgorithms</li> <li>■ 作成日時 : kn-createdDate</li> <li>■ 更新日時 : kn-modifiedDate</li> <li>■ 保管期限日 : kn-retentionExpireDate</li> <li>■ 最新タイムスタンプ日時 : kn-latestTimestampDate</li> <li>■ 検証有効期限終了日時 : kn-validationExpireDate</li> <li>■ 保管責任者 : kn-owners</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイムスタンプ対象 : kn-isCertTarget</li> <li>■ (ユーザ定義属性) : knc_attr-??????</li> </ul>
		検索対象クラス		0	500	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ フォルダ : kn-folder</li> <li>■ 検索フォルダ : kn-queryFolder</li> <li>■ WF連携フォルダ : kn-workflowFolder</li> <li>■ (フォルダ系ユーザ定義クラス) : knc_fol-??????</li> <li>■ 文書 : kn-document</li> <li>■ (文書系ユーザ定義クラス) : knc_doc-??????</li> <li>■ セキュア文書 : kn-document</li> <li>■ (セキュア文書系ユーザ定義クラス) : knc_doc-??????</li> </ul>





コラム

## menuViewSettings.xmlの記述例

```

<menuViewSettings>
  <menuViewSetting id="menuView001">
    <names>
      <displayName locale="ja">
        <value>メニュー表示設定001</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>Menu View Setting 001</value>
      </displayName>
    </names>
    <descriptions>
      <displayName locale="ja">
        <value>メニュー表示設定の説明</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>Menu View Setting Description</value>
      </displayName>
    </descriptions>
    <items>
      <batchOperation>
        <item>remove</item>
        <item>move</item>
      </batchOperation>
      <createFolder>
        <item>kn-workflowFolder</item>
        <item>kn-folder</item>
      </createFolder>
      <createDocument>
        <item>kn-document</item>
      </createDocument>
      <createSecureDocument>
        <item>kn-secureDocument</item>
      </createSecureDocument>
      <drawerOperation>
        <item>attr</item>
        <item>access</item>
      </drawerOperation>
      <folderOperation>
        <item>attr</item>
        <item>access</item>
      </folderOperation>
      <documentOperation>
        <item>attr</item>
        <item>download</item>
      </documentOperation>
      <secureDocumentOperation>
        <item>attr</item>
        <item>download</item>
      </secureDocumentOperation>
      <attributeCondition>
        <item>kn-objectName</item>
      </attributeCondition>
      <classCondition>
        <item>kn-workflowFolder</item>
      </classCondition>
    </items>
  </menuViewSetting>
</menuViewSettings>

```

## クラス定義ファイル (classDefinitions.xml)

キャビネットに定義された、以下のシステム定義クラスと、すべてのユーザ定義クラスを表すXMLファイルです。

- ドロワ (publicDrawer)
- フォルダ (folder)

- 検索フォルダ (queryFolder)
- IM-WorkFlow連携フォルダ (workflowFolder)
- 文書 (document)
- セキュア文書 (secureDocument)

インポートでクラス定義ファイルを指定しなかった場合は、ユーザ定義クラスのインポート処理はスキップされます。

要素の階層

```
<classDefinitions>
  <classDefinition>
    <names>
      <displayName>
        <value>
      <descriptions>
        <displayName>
          <value>
        <attributelds>
          <attributeld>
            <value>
          <attributeValues>
        <versionSetting>
          <numberOfVersion>
          <prefix>
          <suffix>
          <firstVersion>
            <value>
          <attrViewSetting>
        <item>
```

要素	指定可能な要素数	説明						
<classDefinitions>		キャビネットに定義されたユーザ定義クラスを表すXMLのルート要素です。属性は指定できません。						
<classDefinition>	1~300	<classDefinitions>要素の子要素で、1つのクラスを表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>クラス定義のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。</td> </tr> <tr> <td>superClassId</td> <td>派生元クラス定義のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	クラス定義のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。	superClassId	派生元クラス定義のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。
属性	説明							
id	クラス定義のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。							
superClassId	派生元クラス定義のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。							
<names>	0~1	<classDefinition>要素の子要素で、言語ごとのクラス定義名を表す要素です。						
<displayName>	0~4	<names>要素の子要素で、多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ローケルを表す文字列を指定します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合 : default</li> <li>■ 日本語の場合 : ja</li> <li>■ 英語の場合 : en</li> <li>■ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ローケルを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合 : default</li> <li>■ 日本語の場合 : ja</li> <li>■ 英語の場合 : en</li> <li>■ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul>		
属性	説明							
locale	ローケルを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 標準表示名の場合 : default</li> <li>■ 日本語の場合 : ja</li> <li>■ 英語の場合 : en</li> <li>■ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul>							
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。						
<descriptions>	0~1	<classDefinition>要素の子要素で、言語ごとのクラス定義の説明を表す要素です。						

要素	指定可能な要素数	説明				
<displayName>	0~3	<p>&lt;descriptions&gt;要素の子要素です。多言語文字列を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td>ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul>
属性	説明					
locale	ロケールを表す文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準表示名の場合：default</li> <li>日本語の場合：ja</li> <li>英語の場合：en</li> <li>中国語の場合：zh_CN</li> </ul>					
<value>	1	<displayName>要素の子要素で、文字列を表す要素です。属性は指定できません。				
<attributeIds>	0~1	<classDefinition>要素の子要素で、クラス定義に設定された属性ID群を表す要素です。属性は指定できません。				
<attributeId>	1~100	<p>&lt;classDefinition&gt;要素の子要素で、クラス定義に設定されたユーザ属性定義を表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>value</td> <td>ユーザ属性のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	value	ユーザ属性のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。
属性	説明					
value	ユーザ属性のIDを指定します。(必須) 64byteまで入力できます。					
<attributeValues>	0~1	<p>&lt;classDefinition&gt;要素の子要素で、クラス定義をインポートした際に操作履歴に記録される「作成者」、および「作成日時」を指定する要素です。子要素に「作成者(kn:creatorId)」「作成日時(kn:createdDate)」を指定します。サービスに記録されている操作履歴の中に、対応する「クラス定義の作成」操作が存在しない場合、&lt;attributeValues&gt;要素はエクスポートされません。</p>				
<versionSetting>	0~1	<p>&lt;classDefinition&gt;要素の子要素で、クラスに設定されたバージョン設定を表す要素です。文書の場合のみに指定できます。属性は指定できません。</p>				
<numberOfVersion>	1	<p>&lt;versionSetting&gt;要素の子要素で、バージョンの桁数を表す要素です。1~4の数値で指定します。文書の場合のみに指定できます。属性は指定できません。</p>				
<prefix>	1	<p>&lt;versionSetting&gt;要素の子要素で、バージョンのプレフィックスを表す要素です。文字列で指定します。(空文字可)属性は指定できません。</p>				
<firstVersion>	1	<p>&lt;versionSetting&gt;要素の子要素で、バージョンのサフィックスを表す要素です。文字列で指定します。(空文字可)属性は指定できません。</p>				
<suffix>	1	<p>&lt;versionSetting&gt;要素の子要素で、初期バージョンを表す要素です。属性は指定できません。</p>				
<value>	1~4	<firstVersion>要素の子要素で、バージョンの桁数の各桁の数値を表す要素です。				
<attrViewSetting>	0~1	<classDefinition>要素の子要素で、クラスに設定された属性表示設定を表す要素です。				
<item>	0~500	<p>&lt;attrViewSetting&gt;要素の子要素で、1つの表示項目を表す要素です。属性の識別子を指定します。属性は指定できません。</p>				

 コラム

## classDefinitions.xmlの記述例

```

<classDefinitions>
  <classDefinition id="userClass" superClassId="customFolder">
    <names>
      <displayName locale="ja">
        <value>クラス定義</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>User Class Definition</value>
      </displayName>
    </names>
    <descriptions>
      <displayName locale="ja">
        <value>クラス定義です</value>
      </displayName>
      <displayName locale="en">
        <value>This is a user class definition</value>
      </displayName>
    </descriptions>
    <attributelds>
      <attributeld value="knc_attr:userStringAttr" />
      <attributeld value="knc_attr:useBooleanAttr" />
    </attributelds>
    <versionSettings>
      <numberOfVersion>3</numberOfVersion>
      <prefix>version</prefix>
      <suffix></suffix>
      <firstVersion>
        <value>1</value>
        <value>0</value>
      </firstVersion>
    </versionSettings>
    <attrViewSettings>
      <item>kn:createdDate</item>
      <item>kn:description</item>
    </attrViewSettings>
  </classDefinition>
</classDefinitions>

```

## タグ定義ファイル (tagDefinitions.xml)

キャビネットに定義された、すべてのタグ定義を表すXMLファイルです。  
キャビネットにタグ定義がない場合は、エクスポートされません。

## 要素の階層

```

<tagDefinitions>
  <tagDefinition>
    <acl>
      <attributeValues>
      <linkedObjects>
      <object>

```

要素	指定可能な要素数	説明
<tagDefinitions>		キャビネットに定義されたすべてのタグを表すXMLのルート要素です。 属性は指定できません。
<tagDefinition>	1～300	<tagDefinitions>要素の子要素で、1つのタグを表す要素です。 属性は指定できません。
<acl>	1	<tagDefinition>要素の子要素で、タグに設定されているアクセス権を表す要素です。

要素	指定可能な要素数	説明						
<attributeValues>	1	<p>&lt;tagDefinition&gt;要素の子要素で、タグに設定された属性のリストを表す要素です。属性は指定できません。子要素にタグの属性を指定します。属性IDと属性値のXML表記方法は、「<a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a>」を参照してください。指定できる属性は、「<a href="#">タグに関する属性</a>」を参照してください。</p>						
<linkedObjects>	0~1	<p>&lt;tagDefinition&gt;要素の子要素で、タグが設定されているオブジェクトのリストを表す要素です。属性は指定できません。</p>						
<object>	1~ 2,147,483,647	<p>&lt;linkedObjects&gt;要素の子要素で、タグが設定されたオブジェクトを表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>objectId</td> <td>タグが付与されたオブジェクトのIDを表す文字列です。</td> </tr> <tr> <td>classId</td> <td>タグが付与されたオブジェクトのクラスIDを表す文字列です。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	objectId	タグが付与されたオブジェクトのIDを表す文字列です。	classId	タグが付与されたオブジェクトのクラスIDを表す文字列です。
属性	説明							
objectId	タグが付与されたオブジェクトのIDを表す文字列です。							
classId	タグが付与されたオブジェクトのクラスIDを表す文字列です。							

**i** コラム

**tagDefinitions.xml**の記述例

```

<tagDefinitions>
  <tagDefinition Id="kn:tag-100">
    <acl>
      <ace principalId="kn_user:sample" permission="admin" />
    </acl>
    <attributeValues>
      // システム属性のXML表記
    </attributeValues>
    <linkedObjects>
      <object objectId="kn:document-100" classId="kn:document" />
    </linkedObjects>
  </tagDefinition>
</tagDefinitions>

```

モニタ定義ファイル (subscriptionDefinition.xml)

キャビネットに定義された、すべてのモニタ通知設定を表すXMLファイルです。キャビネットにモニタ通知設定がない場合は、エクスポートされません。

要素の階層

```

<subscriptionDefinitions>
  <subscriptionDefinition>
    <attributeValues>
    <linkedObjects>
      <object>

```

要素	指定可能な要素数	説明				
<subscriptionDefinitions>		キャビネットに定義されたモニタ通知設定を表すXMLのルート要素です。属性は指定できません。				
<subscriptionDefinition>	1~50	<p>&lt;subscriptionDefinitions&gt;要素の子要素で、1つのモニタを表す要素です。指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>モニタ定義のIDを表す文字列です。</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	id	モニタ定義のIDを表す文字列です。
属性	説明					
id	モニタ定義のIDを表す文字列です。					

要素	指定可能な要素数	説明						
<attributeValues>	1	<subscriptionDefinition>要素の子要素で、モニタに設定された属性のリストを表す要素です。 子要素にモニタの属性を指定します。属性IDと属性値のXML表記方法は、「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 指定可能な属性は、「 <a href="#">モニタの属性</a> 」を参照してください。						
<linkedObjects>	0～1	<subscriptionDefinition>要素の子要素で、モニタ対象のオブジェクトのリストを表す要素です。 属性は指定できません。						
<object>	1～ 2,147,483,647	<linkedObjects>要素の子要素で、オブジェクトの接続関係を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>objectId</td> <td>監視対象のオブジェクトのIDを表す文字列です。</td> </tr> <tr> <td>classId</td> <td>監視対象のオブジェクトのクラスIDを表す文字列です。</td> </tr> </tbody> </table>			属性	説明	objectId	監視対象のオブジェクトのIDを表す文字列です。	classId	監視対象のオブジェクトのクラスIDを表す文字列です。
属性	説明							
objectId	監視対象のオブジェクトのIDを表す文字列です。							
classId	監視対象のオブジェクトのクラスIDを表す文字列です。							

**i** コラム

**subscriptionDefinition.xmlの記述例**

```
<subscriptionDefinitions>
  <subscriptionDefinition Id="10">
    <attributeValues>
      // システム属性のXML表記
    </attributeValues>
    <linkedObjects>
      <object objectId="kn:document-100" classId="kn:document">
    </linkedObjects>
  </subscriptionDefinition>
</subscriptionDefinitions>
```

ポータル通知設定定義ファイル (portalNoticeDefinition.xml)

キャビネットに定義された、すべてのポータル通知設定を表すXMLファイルです。  
キャビネットにポータル通知設定がない場合は、エクスポートされません。

要素の階層

```
<portalNoticeDataDefinitions>
  <portalNoticeDataDefinition>
    <attributeValues>
```

要素	指定可能な要素数	説明				
<portalNoticeDataDefinitions>		キャビネットに定義されたすべてのポータル通知設定を表すXMLのルート要素です。 属性は指定できません。				
<portalNoticeDataDefinition>	1～ 2,147,483,647	<portalNoticeDataDefinitions>要素の子要素で、1つのポータル通知を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>id</td> <td>ポータル通知のIDを表す文字列です。</td> </tr> </tbody> </table>			属性	説明	id	ポータル通知のIDを表す文字列です。
属性	説明					
id	ポータル通知のIDを表す文字列です。					

要素	指定可能な要素数	説明
<attributeValues>	1	<portalNoticeDataDefinition>要素の子要素で、ポータル通知に設定された属性のリストを表す要素です。 属性は指定できません。 子要素にポータル通知の属性を指定します。 属性IDと属性値のXML表記方法は、「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 指定可能な属性は、「 <a href="#">ポータル通知の属性</a> 」を指定してください。

**i** コラム

**portalNoticeDefinition.xml**の記述例

```

<portalNoticeDataDefinitions>
  <portalNoticeDataDefinition Id="11">
    <attributeValues>
      // システム属性のXML表記
    </attributeValues>
  </portalNoticeDataDefinition>
</portalNoticeDataDefinitions>
    
```

メッセージカスタマイズ定義ファイル(messageCustomizeDefinitions.xml)

キャビネットにある、すべてのメッセージカスタマイズ定義を表すXMLファイルです。

要素の階層

```

<messageTemplateDefinitions>
  <messageTemplateDefinition>
    <messageTemplate>
      <message>
        <messageData>
    
```

要素	指定可能な要素数	説明				
<messageTemplateDefinitions>		キャビネットに定義された、すべてのメッセージカスタマイズ定義を表すXMLファイルです。 属性は指定できません。				
<messageTemplateDefinition>	1~ 2,147,483,647	<messageTemplateDefinitions>要素の子要素で、1つのメッセージカスタマイズ定義を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>templateType</td> <td>                             メッセージカスタマイズの対象となる通知の種別を表します。                              指定できる値は以下の通りです。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ mail : メール通知</li> <li>■ imbox : IMBoxへの通知</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	templateType	メッセージカスタマイズの対象となる通知の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ mail : メール通知</li> <li>■ imbox : IMBoxへの通知</li> </ul>
属性	説明					
templateType	メッセージカスタマイズの対象となる通知の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ mail : メール通知</li> <li>■ imbox : IMBoxへの通知</li> </ul>					

要素	指定可能な要素数	説明				
<messageTemplate>	1~4	<p>&lt;messageTemplateDefinition&gt;要素の子要素で、メッセージ通知の対象を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>noticeType</td> <td> <p>メッセージテンプレートの通知の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ notice : 通知先指定通知</li> <li>▪ monitor : モニタ通知</li> <li>▪ share_st_user : 文書公開開始（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_ed_user : 文書公開終了（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_cl_user : 文書公開中止（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_st_gst : 文書公開開始（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ share_ed_gst : 文書公開終了（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ share_cl_gst : 文書公開中止（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ expiration : 保管期限切れ予告通知</li> <li>▪ owner : 保管責任者変更通知</li> <li>▪ timestamp_attach_error : タイムスタンプ付与失敗通知</li> <li>▪ validationExpireDate : 検証有効期限終了予告通知</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	noticeType	<p>メッセージテンプレートの通知の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ notice : 通知先指定通知</li> <li>▪ monitor : モニタ通知</li> <li>▪ share_st_user : 文書公開開始（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_ed_user : 文書公開終了（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_cl_user : 文書公開中止（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_st_gst : 文書公開開始（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ share_ed_gst : 文書公開終了（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ share_cl_gst : 文書公開中止（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ expiration : 保管期限切れ予告通知</li> <li>▪ owner : 保管責任者変更通知</li> <li>▪ timestamp_attach_error : タイムスタンプ付与失敗通知</li> <li>▪ validationExpireDate : 検証有効期限終了予告通知</li> </ul>
属性	説明					
noticeType	<p>メッセージテンプレートの通知の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ notice : 通知先指定通知</li> <li>▪ monitor : モニタ通知</li> <li>▪ share_st_user : 文書公開開始（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_ed_user : 文書公開終了（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_cl_user : 文書公開中止（認証済ユーザ向け）</li> <li>▪ share_st_gst : 文書公開開始（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ share_ed_gst : 文書公開終了（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ share_cl_gst : 文書公開中止（ゲストユーザ向け）</li> <li>▪ expiration : 保管期限切れ予告通知</li> <li>▪ owner : 保管責任者変更通知</li> <li>▪ timestamp_attach_error : タイムスタンプ付与失敗通知</li> <li>▪ validationExpireDate : 検証有効期限終了予告通知</li> </ul>					
<message>	1~4	<p>&lt;messageTemplate&gt;要素の子要素で、1つのメッセージを表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>locale</td> <td> <p>ロケールを表す文字列を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 標準表示名の場合 : default</li> <li>▪ 日本語の場合 : ja</li> <li>▪ 英語の場合 : en</li> <li>▪ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	locale	<p>ロケールを表す文字列を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 標準表示名の場合 : default</li> <li>▪ 日本語の場合 : ja</li> <li>▪ 英語の場合 : en</li> <li>▪ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul>
属性	説明					
locale	<p>ロケールを表す文字列を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 標準表示名の場合 : default</li> <li>▪ 日本語の場合 : ja</li> <li>▪ 英語の場合 : en</li> <li>▪ 中国語の場合 : zh_CN</li> </ul>					
<messageData>	1~4	<p>&lt;message&gt;要素の子要素で、実際のメッセージ文字列を表す要素です。テキスト要素にメッセージ文字列を指定します。 指定できる属性は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>type</td> <td> <p>メッセージ文字列の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ subject : 件名（メール通知の場合のみ指定可能）</li> <li>▪ body : 本文</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	type	<p>メッセージ文字列の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ subject : 件名（メール通知の場合のみ指定可能）</li> <li>▪ body : 本文</li> </ul>
属性	説明					
type	<p>メッセージ文字列の種別を表します。 指定できる値は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ subject : 件名（メール通知の場合のみ指定可能）</li> <li>▪ body : 本文</li> </ul>					

 コラム

messageCustomizeDefinitions.xmlの記述例

```
<messageTemplateDefinitions>
  <messageTemplateDefinition templateType="MAIL">
```



```

<messageTemplate noticeType="monitor">
  <message locale="default">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
  <message locale="ja">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
  <message locale="en">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
  <message locale="zh_CN">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
</messageTemplate>
<messageTemplate noticeType="notice">
  <message locale="default">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
  <message locale="ja">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
  <message locale="en">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
  <message locale="zh_CN">
    <messageDatatype="subject">
      // メッセージ件名</messageData>
    <messageDatatype="body">
      // メッセージ本文</messageData>
    </message>
</messageTemplate>
</messageTemplateDefinition>
<messageTemplateDefinition templateType="inbox">
  <messageTemplate noticeType="monitor">
    <message locale="default">
      <messageDatatype="body">
        // メッセージ本文</messageData>
      </message>
    <message locale="ja">
      <messageDatatype="body">
        // メッセージ本文</messageData>
      </message>
    <message locale="en">
      <messageDatatype="body">
        // メッセージ本文</messageData>
      </message>
    <message locale="zh_CN">
      <messageDatatype="body">
        // メッセージ本文</messageData>
      </message>
    </messageTemplate>
  </messageTemplateDefinition>
  <messageTemplate noticeType="share_of_user">

```

```

</messageTemplate rootObjectType="share_sc_user" />
<message locale="default">
  <messageDatatype="body">
    // メッセージ本文</messageData>
  </message>
<message locale="ja">
  <messageDatatype="body">
    // メッセージ本文</messageData>
  </message>
<message locale="en">
  <messageDatatype="body">
    // メッセージ本文</messageData>
  </message>
<message locale="zh_CN">
  <messageDatatype="body">
    // メッセージ本文</messageData>
  </message>
</messageTemplate>
</messageTemplateDefinition>
</messageTemplateDefinitions>

```

## ドロワ情報ファイル (info.xml)

1つのドロワを表すXMLファイルです。

要素	説明
----	----

<object>	1つのドロワを表現するXMLのルート要素です。 要素の記述方法は、「 <a href="#">&lt;object&gt; 要素の表記方法</a> 」を参照してください。 指定できる属性は、「 <a href="#">ドロワの属性</a> 」を参照してください。
----------	---

### コラム

#### info.xmlの記述例

```

<object objectId="kn:publicDrawer-100" classId="kn:publicDrawer" rootClassId="kn:publicDrawer">
  <acl>
    <ace principalId="kn_user:aaaaa" permission="write" />
  </acl>
  <shareAcl>
    <ace principalId="kn_user:sample" permission="write" />
  </shareAcl>
  <attributeValues>
    <stringAttributeValue id="kn:objectName">
      <value>aaaaa</value>
    </stringAttributeValue>
    ... // システム属性のXML表記
  </attributeValues>
  <grantAdminRoleForCreator>true</grantAdminRoleForCreator>
  <objectMenuViewSetting id="default"/>
</object>

```

## フォルダ情報ファイル (info.xml)

1つのフォルダを表すXMLファイルです。

要素	説明
----	----

<object>	1つのフォルダを表すXMLのルート要素です。 要素の記述方法は、「 <a href="#">&lt;object&gt; 要素の表記方法</a> 」を参照してください。 指定できる属性は、「 <a href="#">フォルダ</a> 、 <a href="#">フォルダ検索</a> 、 <a href="#">IM-WorkFlow連携フォルダの属性</a> 」を参照してください。
----------	--

### コラム

#### info.xmlの記述例

- フォルダの場合

```
<object objectId="kn:folder-100" classId="kn:folder" rootClassId="kn:folder">
  <acl>
    <ace principalId="kn_user:sample" permission="read" />
  </acl>
  <attributeValues>
    <stringAttributeValue id="kn:objectName">
      <value>aaaaa</value>
    </stringAttributeValue>
    ... // システム属性、ユーザ属性のXML表記
  </attributeValues>
  <objectListViewSetting>
    <default>test</default>
    <settings>
      <setting>test</setting>
    </settings>
  </objectListViewSetting>
  <objectMenuViewSetting id="default"/>
</object>
```

- 検索フォルダの場合

```
<object objectId="kn:queryFolder-100" classId="kn:queryFolder" rootClassId="kn:queryFolder">
  <acl>
    <ace principalId="kn_user:sample" permission="read" />
  </acl>
  <attributeValues>
    <stringAttributeValue id="kn:objectName">
      <value>aaaaa</value>
    </stringAttributeValue>
    ... // システム属性、ユーザ属性のXML表記
  </attributeValues>
  <queryCondition serchType="advance">
    <scopeId objectId="kn:folder-111" />
    <targetClassList>
      <targetClass>folder</targetClass>
      <targetClass>document</targetClass>
    </targetClassList>
    <searchCondList>
      <searchCond operation="EQ" attribute id="kn:objectName" />
      <value>SAMPLE</value>
    </searchCond>
  </searchCondList>
  </queryCondition>
</object>
```

- IM-Workflow連携フォルダの場合

```

<object objectId="kn:workflowFolder-8" classId="kn:workflowFolder" rootClassId="kn:workflowFolder">
  <acl>
    <ace principalId="kn_user:sample" permission="read" />
  </acl>
  <attributeValues>
    <stringAttributeValue id="kn:objectName">
      <value>aaaaa</value>
    </stringAttributeValue>
    ... // システム属性、ユーザ属性のXML表記
  </attributeValues>
  <objectListViewSetting>
    <default>test</default>
    <settings>
      <setting>test</setting>
    </settings>
  </objectListViewSetting>
  <objectMenuViewSetting id="default"/>
  <flowViewSetting>
    <upload>
      <item>aaaaaaaa</item>
    </upload>
    <checkin>
      <item>bbbbbbbb</item>
    </checkin>
    <del>
      <item>ccccccc</item>
    </del>
  </flowViewSetting>
</object>

```

## 文書情報ファイル (info.xml)

1つの文書を表すXMLファイルです。

要素	説明
<object>	1つの文書を表すXMLのルート要素です。 要素の記述方法は、「 <a href="#">&lt;object&gt;要素の表記方法</a> 」を参照してください。 指定できる属性は、「 <a href="#">文書、セキュア文書の属性</a> 」を参照してください。

**i** コラム

**info.xml**の記述例

- 文書の場合

```
<object objectId="kn:document-100" classId="kn:document" rootClassId="kn:document">
  <acl>
    <ace principalId="kn_user:tanaka" permission="read" />
  </acl>
  <stringAttributeValue id="kn:objectName">
    <value>aaaaa</value>
  </stringAttributeValue>
  ... // システム属性、ユーザ属性のXML表記
</attributeValues>
</object>
```

- セキュア文書の場合

```
<object objectId="kn:secureDocument-11" classId="kn:secureDocument" rootClassId="kn:secureDocument">
  <acl>
    <ace principalId="kn_user:tanaka" permission="read"/>
  </acl>
  <attributeValues>
    <stringAttributeValue id="kn:objectName">
      <value>aaaaa</value>
    </stringAttributeValue>
    ... // システム属性、ユーザ属性のXML 表記
  </attributeValues>
</object>
```

バージョン情報ファイル (versions.xml)

文書の各バージョンのコンテンツに設定された属性値を表すXMLファイルです。

要素の階層

```
<vesions>
  <version>
    <attributeValues>
```

要素	指定可能な要素数	説明						
<vesions>		文書のバージョンごとのコンテンツに設定されている情報を表すXMLファイルのルート要素です。 この要素に属性は指定できません。						
<version>	1つ以上	<versions>要素の子要素で、特定のバージョンのコンテンツに設定された情報を表す要素です。 指定できる属性は、以下の通りです。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>属性</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>objectId</td> <td>オブジェクトID (必須)</td> </tr> <tr> <td>number</td> <td>バージョン番号 (必須)</td> </tr> </tbody> </table>	属性	説明	objectId	オブジェクトID (必須)	number	バージョン番号 (必須)
属性	説明							
objectId	オブジェクトID (必須)							
number	バージョン番号 (必須)							
<attributeValues>		<version>要素の子要素で、現在のバージョンのコンテンツに指定された属性値のリストを表す要素です。 この要素に属性は指定できません。 この要素の直下にコンテンツに設定されたシステム属性を指定します。ユーザ属性を指定することはできません。 属性IDと属性値のXMLの記述方法は、「 <a href="#">属性ID、属性値のXML表記方法</a> 」を参照してください。 指定できる属性は、「 <a href="#">コンテンツの属性</a> 」を参照してください。						



コラム

**versions.xml**の記述例

```
<versions>
  <version objectId="kn:document-10" number="1">
    <attributeValues>
      <stringAttributeValue id="kn:objectName">
        <value>aaaaa</value>
      </stringAttributeValue>
      ... // システム属性、ユーザ属性のXML 表記
    </attributeValues>
  </version>
</versions>
```

制限事項について説明します。

- 並列実行
  - インポートとエクスポートは、同時に実行できません。
- 処理中にエラーが発生した場合
  - エクスポート中に致命的なエラーが発生した場合（稼働中のサーバが停止した等）、エクスポート処理は中断されます。中断までに作成されたデータが残っているときは削除して、もう一度最初からエクスポートを実行してください。
  - インポート中に致命的なエラーが発生した場合（稼働中のサーバが停止した等）、インポート処理は中断されます。この場合、以下の方法で、もう一度インポートを実行してください。
    - インポートを最初からやり直す場合  
実行パラメータで「restartMode」を「true」に指定し、中断されたインポート時に作成された不完全なキャビネットを削除してからインポートを実行します。
    - インポートが中断されたところから再開する場合  
実行パラメータで「restartMode」を「false」に指定し、もう一度インポートを実行します。
  - インポート中に、ある1つのオブジェクトに対する処理でエラーが発生した場合、そのオブジェクトに対する処理をスキップして、インポート処理が継続されます。  
ただし、以下の場合は、スキップせずにエラー終了となります。
    - キャビネットの設定に関するファイルを読み込めなかった場合  
対象となるファイルは、キャビネット定義ファイル、ユーザ属性定義ファイル、クラス定義ファイル、タグ定義ファイル、モニタ定義ファイル、ポータル通知定義ファイル、セキュリティ定義ファイル、メッセージカスタマイズ定義ファイルです。
    - 属性定義をインポートできなかった場合
    - クラス定義をインポートできなかった場合
    - メッセージテンプレートをインポートできなかった場合
- キャビネット名について
  - インポート対象のintra-mart Accel Documentsに、インポートするキャビネットと同名のキャビネットが存在する場合、インポートは実行できません。
- ごみ箱内の文書について
  - ごみ箱の中に格納された文書はインポートとエクスポートの対象外です。
- 通知情報について
  - 公開されている文書について、「通知状況詳細」画面の各項目の記録情報は、エクスポートの対象外です。
  - インポートした公開文書の「通知状況詳細」画面の各項目は以下の通り表示されます。

項目	通知情報詳細画面に表示される値
公開名	インポートした文書の公開名
文書名	インポートした文書名
通知状況	通知完了日時
通知予定日時	インポートした文書に設定された通知予定日時
通知完了日時	空文字
成功件数	0
失敗件数	0
未通知件数	0
再通知待ち件数	0

- 通知前の公開文書をインポートした場合、通知は実行されません。
- 保管期限切れ予告通知は、エクスポートの対象外です。インポート時は、文書の保管設定に従って、通知のための情報が生成されません。即時通知は実行されません。
- 保管責任者変更通知は、エクスポート、およびインポートの対象外です。
- 文書のURLについて

- エクスポート前に、通知機能を使用して通知されたメールやIMBoxの文面に、文書のURLや公開文書のURLが記載されている場合、記載されているURLではアクセスできない場合があります。
- 分散環境下でのインポートとエクスポートについて
  - インポート用のデータを格納するディレクトリ、およびエクスポートデータを出力するディレクトリは、intra-mart Accel Documentsが稼働するサーバにマウントされたディレクトリを指定してください。
  - 分散環境でインポート、エクスポートを実行するときは、エクスポートデータを格納した、またはエクスポートデータを出力するサーバでインポート、エクスポートを実行してください。
- 操作履歴について
  - 操作履歴は、インポートが成功したオブジェクトに関する記録のみインポートされます。インポート中にエラーになり生成されなかったオブジェクトや、ごみ箱に入っている、または完全に削除されたオブジェクトの操作履歴はインポートされません。
  - ユーザ属性定義、クラス定義の作成に関する操作履歴は、操作履歴ファイル「eventRecord.csv」に記録されず、下記の通り設定されます。

項目	操作履歴に記録される値
操作日時	ユーザ属性定義ファイル (attributeDefinitions.xml)、クラス定義ファイル (classDefinitions.xml) 内で指定された値です。 ファイル内で値が指定されていない場合は、キャビネットの作成日時と同じ日時が設定されます。
操作ユーザ	ユーザ属性定義ファイル (attributeDefinitions.xml)、クラス定義ファイル (classDefinitions.xml) 内で指定された値です。 ファイル内で値が指定されていない場合は、「システムユーザ」が指定されます。
クライアントアドレス	intra-mart Accel Documentsが稼働するサーバのホストのアドレスです。
操作クライアント	「Accel Documents Import Tool」という固定文字です。

また、「クラス定義の編集」、「クラス定義の削除」、「属性定義の編集」、および「属性定義の削除」操作はインポートの対象外です。

- ユーザ属性定義の属性型について
  - binary型など、対象外の属性型のユーザ属性定義が存在した場合は、インポート、およびエクスポートはエラー終了となります。
- UGID型の属性のインポートについて
  - 対応するUGIDが存在しない文字列をUGID型属性の属性値に指定した場合、エラーにはならず、指定された文字列がそのままインポートされます。
- アクセス権のインポートについて
  - アクセス権を指定する際、指定したUGIDが存在しないと、エラーにはならず、指定された文字列がそのままインポートされます。
- インポートにおける属性などの制限について
  - インポート処理では、制限値を超える値の指定があっても、制限のチェックが実施されず、インポートが正常に終了する場合があります。この場合、インポートが正常に終了しても、インポートしたデータがintra-mart Accel Documentsで正しく動作しないことがあります。
- メッセージテンプレート定義について
  - メッセージテンプレート定義の内容は、制限値を超える値の指定があっても、制限のチェックが実施されず、インポートが正常に終了する場合があります。この場合、インポートが正常に終了しても、インポートしたデータがintra-mart Accel Documentsで正しく動作しないことがあります。
- キャビネットの属性に関する制限について
  - キャビネットの属性に関する制限は、制限値を超える値の指定があっても、制限のチェックが実施されず、インポートが正常に終了する場合があります。この場合、インポートが正常に終了しても、インポートしたデータがintra-mart Accel Documentsで正しく動作しないことがあります。
- リポジトリバージョンのチェックについて
  - インポート時に、キャビネットのinfo.xmlファイルにある<object>要素の<repositoryVersionId>属性で指定されているリポジトリのバージョンと、インポート先のリポジトリバージョンのバージョンが異なると、エラーが発生します。<repositoryVersionId>属性が指定されていない場合は、バージョンのチェックは実施されません。



また、<repositoryVersionId>属性は、必ずエクスポートされます。

ここでは、インポート、エクスポートの付随情報について説明します。

## インポート、エクスポートの対象

インポート、エクスポートの対象について説明します。

### データ

インポート、エクスポートの対象データは、以下の通りです。

○：対象

△：一部インポート、エクスポートで扱わない要素を含む

対象	情報の種類	エクスポート	インポート
属性定義	属性ID	○	○
	名前（言語ごと）	○	○
	表示名（言語ごと）	○	○
属性の候補値	候補値	○	○
属性のデフォルト値	デフォルト値	○	○
	登録日をデフォルト値とするかどうか	○	○
	作成者をデフォルト値とするかどうか	○	○
クラス定義	クラスID	○	○
	派生元クラスID	○	○
	名前（言語ごと）	○	○
	表示名（言語ごと）	○	○
	使用可能属性	○	○
クラスの属性表示設定	表示属性	○	○
	非表示属性	○	○
	表示順	○	○
クラスのバージョン設定	バージョンの桁数	○	○
	プレフィックス	○	○
	サフィックス	○	○
	初期バージョン	○	○
タグ定義	属性	○	○
	アクセス権	○	○
	タグが付与されているオブジェクト	○	○

対象	情報の種類	エクスポート	インポート
セキュリティ定義	ID	○	○
	タイプ	○	○
	名前（言語ごと）	○	○
	権限パスワード	○	○
	文書を開く際のパスワード	○	○
	プリント制限	○	○
	コピー制限	○	○
	テキストアクセス制限	○	○
	ダウンロード制限	○	○
	オーナーのパスワード	○	○
保管定義	名前（言語ごと）	○	○
	文書の保護の設定	○	○
	期限日の設定	○	○
	期限切れ文書の設定	○	○
	デフォルト保管責任者	○	○
	デフォルト保管期間	○	○
	デフォルトタイムスタンプ設定	○	○
	文書コピー時の動作	○	○
	期限切れ予告通知日	○	○
	通知方法	○	○
	設定レベル	○	○
一覧表示設定	ID	○	○
	名前（言語ごと）	○	○
	説明（言語ごと）	○	○
	表示属性	○	○
	非表示属性	○	○
	表示順	○	○
	表示属性の列幅	○	○
	初期ソート条件	○	○
メニュー表示設定	ID	○	○
	名前（言語ごと）	○	○
	説明（言語ごと）	○	○
	表示メニューセット	○	○
	デフォルトかどうか	○	○
モニタ定義	属性	○	○
	モニタ対象のオブジェクト	○	○
ポータル通知定義	属性	○	○

対象	情報の種類	エクスポート	インポート
メッセージカスタマイズ定義	IMBoxへの通知メッセージ	○	○
	メールへの通知メッセージ	○	○
キャビネット	設定	○	○
	属性	○	○
ドロワ	オブジェクトID	○	○
	階層構成	○	○
	属性	○	○
	アクセス権	○	○
	一覧表示設定	○	○
	メニュー表示設定	○	○
フォルダ IM-Workflow連携フォルダ	オブジェクトID	○	○
	階層構成	○	○
	属性	○	○
	アクセス権	○	○
	一覧表示設定	○	○
	メニュー表示設定	○	○
	フロー一覧表示設定	○（「IM-Workflow連携フォルダ」のみ対象）	○（「IM-Workflow連携フォルダ」のみ対象）
検索フォルダ	オブジェクトID	○	○
	階層構成	○	○
	属性	○	○
	アクセス権	○	○
	検索設定	○	○
	一覧表示設定	○	○
	メニュー表示設定	○	○
文書 セキュア文書	オブジェクトID	○	○
	階層構成	○	○
	属性	○	○
	コンテンツ	○	○
	アクセス権	○	○
	バージョン	○	○
	保管設定	○	○
	公開設定	△（通知の設定は対象外）	△（通知の設定は対象外）
操作履歴	履歴情報	○	△ （「クラス定義の編集」、「クラス定義の削除」、「属性定義の編集」、「属性定義の削除」の操作は対象外）

**i** コラム

ごみ箱内の文書、セキュア文書、フォルダ、検索フォルダ、およびIM-WorkFlow連携フォルダは、エクスポートの対象外です。また、ごみ箱に、文書、セキュア文書、フォルダ、検索フォルダ、IM-WorkFlow連携フォルダをインポートすることはできません。

## 属性

インポート、エクスポートの対象属性は、以下の通りです。

## 目次

- [キャビネットの属性](#)
- [ドロワの属性](#)
- [フォルダ、フォルダ検索、IM-WorkFlow連携フォルダの属性](#)
- [文書、セキュア文書の属性](#)
- [コンテンツの属性](#)
- [モニタの属性](#)
- [ポータル通知の属性](#)
- [公開文書情報に関する属性](#)
- [通知に関する設定情報の属性](#)
- [タグに関する属性](#)

## キャビネットの属性

キャビネット(cabinet)の属性は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。(常に固定の値が設定される)

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:cabinetAccessiblePrincipals	多値・UGID	要素数0～1,000まで	○	○
kn:cabinetAdminPrincipals	多値・UGID	要素数1～1,000まで	○	○
kn:cabinetName	単値・文字列	0～255文字	○	○
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:currentAbstractDocumentCount	単値・長整数型		○	－
kn:currentAbstractFolderCount	単値・長整数型		○	－
kn:currentAccessiblePrincipalCount	単値・長整数型		○	－
kn:currentAdminPrincipalCount	単値・長整数型		○	－
kn:currentPublicDrawerCount	単値・長整数型		○	－
kn:currentSubscriptionCount	単値・長整数型		○	－
kn:currentTotalOriginalContentSize	単値・長整数型		○	－
kn:disusedAbstractDocumentCount	単値・長整数型		○	－
kn:disusedAbstractFolderCount	単値・長整数型		○	－
kn:disusedTotalOriginalContentSize	単値・長整数型		○	－
kn:documentSharingSetting	単値・文字列	指定可能な値は ENABLE、 ADMIN_ONLY、 DISABLE	○	○
kn:endNoticeOffset	単値・整数型	0以上365以下	○	○
kn:limitOfAbstractDocumentCount	単値・長整数型	0以上1,000,000以下	○	○

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:limitOfAbstractFolderCount	単値・長整数型	0以上1,000,000以下	○	○
kn:limitOfAccessiblePrincipalCount	単値・長整数型	0以上1,000以下	○	○
kn:limitOfAdminPrincipalCount	単値・長整数型	0以上1,000以下	○	○
kn:limitOfPublicDrawerCount	単値・長整数型	0以上100以下	○	○
kn:limitOfTotalOriginalContentSize	単値・長整数型	0以上	○	○
kn:limitOfShareStartPeriod	単値・整数型	0以上99999以下	○	○
kn:limitOfShareEndPeriod	単値・整数型	0以上99999以下	○	○
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:preNoticeOffset	単値・整数型	0以上365以下	○	○
kn:removeEventEnabledFlag	単値・真偽型		○	○
kn:shareInformationRetentionPeriod	単値・整数型	0以上365以下	○	○
kn:enableCertSetting	単値・真偽型		○	○
kn:certAttachTiming	単値・文字列	指定可能な値は UPLOADED、MANUAL	○	○
kn:removeCertTargetEnabledFlag	単値・真偽型		○	○

#### ドローの属性

ドロー(publicDrawer)の属性は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:aclModifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:aclModifierId	単値・UGID		○	○
kn:aclModifierName	単値・文字列		○	－
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:creatorName	単値・文字列		○	－
kn:currentAbstractDocumentCount	単値・長整数		○	－
kn:currentAbstractFolderCount	単値・長整数		○	－
kn:currentTotalOriginalContentSize	単値・長整数		○	－
kn:description	単値・文字列	0～2,000文字	○	○
kn:disusedAbstractDocumentCount	単値・長整数		○	－
kn:disusedAbstractFolderCount	単値・長整数		○	－
kn:disusedTotalOriginalContentSize	単値・長整数		○	－
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:modifierName	単値・文字列		○	－
kn:objectName	単値・文字列	0～255文字	○	○

フォルダ(folder、queryFolder、workflowFolder)の属性は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:aclModifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:aclModifierId	単値・UGID		○	○
kn:aclModifierName	単値・文字列		○	－
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:creatorName	単値・文字列		○	－
kn:description	単値・文字列	0～2,000文字	○	○
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:modifierName	単値・文字列		○	－
kn:objectName	単値・文字列	0～255文字	○	○



#### コラム

ユーザ属性が設定されている場合、ユーザ属性もインポートとエクスポートの対象になります。



#### コラム

検索のフォルダの場合は、上記属性以外に設定されている検索条件もエクスポートされます。詳細は、「<objectListViewSetting>要素」を参照してください。

### 文書、セキュア文書の属性

文書(document、secureDocument)の属性は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:aclModifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:aclModifierId	単値・UGID		○	○
kn:aclModifierName	単値・文字列		○	－
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:creatorName	単値・文字列		○	－
kn:currentTotalOriginalContentSize	単値・文字列		○	－
kn:description	単値・文字列	0～2,000文字	○	○
kn:numberOfVersions	単値・整数		○	－
kn:lockedById	単値・UGID		○	○
kn:lockedDate	単値・日付型		○	○
kn:lockedByName	単値・文字列		○	－
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:modifierName	単値・文字列		○	—
kn:owners	多値・UGID		○	○
kn:retentionExpireDate	単値・日付型		○	○
kn:indexingRequestedDate	単値・日付型		○	—
kn:displayVersionNo	多値・整数		○	○
kn:workflowMatter	多値・文字列		○	○
kn:isCertTarget	単値・真偽型		○	○
kn:latestTimestampDate	単値・日付型		○	○
kn:validationExpireDate	単値・日付型		○	○
kn:hashAlgorithms	多値・文字列	0~100文字	○	○
kn:certValidationStatus	単値・文字列	指定可能な値は EXPIRED、CHANGED、 REVOCATION、 UNSUPPORTED	○	○

### コラム

ユーザ属性が設定されている場合、ユーザ属性もインポートとエクスポートの対象になります。

### コラム

タイムスタンプ付きの文書をインポートする際には、インポート時にタイムスタンプの検証を行い、取り込み対象のPDFから取得したタイムスタンプ情報が取り込まれます。

このため、エクスポート時点で検証未実施の状態のエクスポートデータの場合でも、インポート後は検証実施済みとなります。

## コンテンツの属性

文書のバージョンごとのコンテンツの属性は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

—：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:versionCreatedDate	単値・日付型		○	○
kn:versionCreatorId	単値・UGID		○	○
kn:versionCreatorName	単値・文字列		○	—
kn:versionModifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:versionModifierId	単値・UGID		○	○
kn:versionModifierName	単値・文字列		○	—
kn:numberOfPages	単値・整数型		○	—
kn:objectName	単値・文字列	0~255文字	○	○
kn:contentType	単値・文字列		○	○
kn:originalContentSize	単値・長整数型		○	—
kn:paperHeight	単値・整数型		○	—
kn:paperWidth	単値・整数型		○	—



属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:scaledThumbnailContentSize	単値・長整数型		○	—
kn:thumbnailContentSize	単値・長整数型		○	—
kn:versionComment	単値・文字列	0~2,000文字	○	○
kn:viewPdfContentSize	単値・長整数型		○	—
kn:isLatestVersion	単値・真偽型		○	○

## モニタの属性

モニタに関する情報(subscription)は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

—：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorName	単値・文字列		○	—
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:eventTypes	多値・文字列	指定可能な値 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ OBJECT_CREATED</li> <li>▪ DOCUMENT_VERSION_CREATED</li> <li>▪ OBJECT_DISUSED</li> </ul>	○	○
kn:isActive	単値・真偽型		○	○
kn:locale	単値・文字列	以下のいずれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ja</li> <li>▪ en</li> <li>▪ zh_CN</li> </ul>	○	○
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:modifierName	単値・文字列		○	—
kn:noticePeriod	単値・整数型	0~10	○	○
kn:recipientIds	多値・UGID型	要素数は0~100	○	○
kn:subscriptionName	単値・文字列	0~100文字	○	○
kn:subscriptionType	多値・文字列	指定可能な値 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ MAIL</li> <li>▪ PORTAL</li> <li>▪ BOX</li> </ul>	○	○

## ポータル通知の属性

ポータル通知の情報(portalNoticeData)は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

—：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:expireDate	単値・日付型		○	○
kn:isUnread	単値・真偽型		○	○
kn:messageText	単値・文字列	0～200文字	○	○
kn:operationType	単値・文字列	0～200文字	○	○
kn:portalNoticeDataName	単値・文字列	1～2000文字	○	○
kn:portalNoticeOperator	単値・UGID		○	○
kn:portalNoticeShareEndDate	単値・日付型		○	○
kn:portalNoticeShareId	単値・文字列	0～256文字	○	○
kn:portalNoticeShareStartDate	単値・日付型		○	○
kn:portalNoticeType	単値・文字列	1～256文字	○	○
kn:recipientIds	多値・UGID	要素数は0～100	○	○
kn:relatedObjectId	単値・文字列		○	○
kn:relatedObjectName	単値・文字列	kn:relatedObjectIdに指定されたオブジェクトの名前	○	○

#### 公開文書情報に関する属性

文書公開に関する情報(shareInformation)は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:expireDate	単値・日付型		○	○
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:objectName	単値・文字列	0～255文字	○	○
kn:recipientIds	多値・UGID	要素数は0～100	○	○
kn:shareId	単値・文字列	1～256文字	○	○
kn:startDate	単値・日付型		○	○
kn:versionId	単値・文字列	1～100文字	○	○

#### 通知に関する設定情報の属性

文書公開の通知に関する設定情報(noticeformation)は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:endNoticeScheduleDate	単値・日付型		○	○

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:eventType	単値・文字列	DOCUMENT_SHARE_STARTED	○	○
kn:locale	単値・文字列	以下のいずれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ja</li> <li>▪ en</li> <li>▪ zh_CN</li> </ul>	○	○
kn:timeZone	単値・文字列	Javaで使用可能なTimeZoneのID	○	○
kn:messageText	単値・文字列	0～200文字	○	○
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:noticeEmailAddresses	多値・文字列	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 要素数は最大100まで</li> <li>▪ 0～250文字</li> </ul>	○	○
kn:noticeMethods	多値・文字列	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 要素数は最大3まで</li> <li>▪ 指定可能な値 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ MAIL</li> <li>▪ PORTAL</li> <li>▪ BOX</li> </ul> </li> </ul>	○	○
kn:noticeUgIds	多値・UGID	要素数は最大100まで	○	○
kn:objectName	単値・文字列	0～255文字	○	○
kn:preNoticeScheduleDate	単値・日付型		○	○
kn:relatedObjectId	単値・文字列		○	○
kn:relatedObjectName	単値・文字列		○	○

#### タグに関する属性

オブジェクトに付与されているタグに関する情報(tag)は、以下の通り処理されます。

○：インポート、エクスポートの対象

－：インポートの対象外。ただし、処理が正常終了した場合、エクスポート元の属性と同じ値になる。

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:createdDate	単値・日付型		○	○
kn:creatorId	単値・UGID		○	○
kn:creatorName	単値・文字列		○	－
kn:description	単値・文字列	0～2,000文字	○	○
kn:isPrivateTag	単値・真偽型		○	○
kn:modifiedDate	単値・日付型		○	○
kn:modifierId	単値・UGID		○	○
kn:modifierName	単値・文字列		○	－
kn:objectName	単値・文字列	0～255文字	○	－

属性ID	属性型	インポート時の制限	エクスポート	
			ト	インポート
kn:tagColor	単値・文字列	以下のいずれかを指定 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ red</li> <li>▪ blue</li> <li>▪ gray</li> <li>▪ pink</li> <li>▪ black</li> <li>▪ green</li> <li>▪ purple</li> <li>▪ yellow</li> </ul>	○	○

## インポート、エクスポートのジョブ作成

インポートとエクスポートでは、あらかじめ登録されているジョブのカテゴリ、ジョブ設定、ジョブネットカテゴリ、およびジョブネットを使用するため、ジョブを新たに作成する必要はありません。

何らかの理由でジョブを削除し、再度作成する場合は、「ジョブ設定」の「実行時の情報」を以下の通り設定します。

項目	設定
実行言語	Java
実行プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ インポートの場合 jp.co.fujixerox.kiun.repository.web.job.KnCabinetImportJob</li> <li>▪ エクスポートの場合 jp.co.fujixerox.kiun.repository.web.job.KnCabinetExportJob</li> </ul>

### コラム

ジョブ作成の詳細は、「[intra-mart Accel Platform テナント管理者操作ガイド](#)」を参照してください。

## インポート、エクスポートのリカバー処理

インポート、またはエクスポートの処理中にサーバが停止した場合、ジョブが実行中のまま残り、インポート、エクスポートが実行できなくなる場合があります。

リカバー用のジョブを作成し、実行することで、実行中のジョブを停止、削除することができます。

### コラム

リカバー用のジョブは、あらかじめ登録されていません。リカバー処理をする場合は、ジョブを作成してください。

## ジョブを作成する

- 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブ設定」をクリックします。
- 「ジョブ新規作成」をクリックします。
- ジョブ情報を入力します。
  - 「ジョブカテゴリ」は、「intra-mart Accel Documents」を選択します。
  - 「実行時の情報」は、以下の通り指定します。
    - 実行言語（必須）  
Java
    - 実行プログラム（必須）  
jp.co.fujixerox.kiun.repository.web.job.KnRecoverExportImportJob
- 「この内容でジョブを作成する」をクリックします。  
確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。
- ジョブを作成できました。

1. 「サイトマップ」→「テナント管理」→「ジョブ管理」→「ジョブネット設定」をクリックします。
2. 「ジョブネット新規作成」をクリックします。
3. ジョブネット情報を入力します。  
 「ジョブネットカテゴリ」は、「intra-mart Accel Documents」を選択します。  
 「実行パラメータ」に指定できるキーは、以下の通りです。

キー	値
mode (任意)	ジョブを削除する場合は、「delete」を指定します。 値が指定されていない場合は、ジョブの停止を行います。

4. 「トリガ設定」の「日時指定」が選択されていることを確認し、「新規登録」をクリックします。

5. エクスポートする日時を指定し、「決定」をクリックします。
6. 設定したトリガの「有効」をチェックします。

7. 「この内容でジョブネットを作成する」をクリックします。  
 確認ダイアログが表示されたら「決定」をクリックします。

8. 実行スケジュールを設定できました。  
 設定した内容で自動的にリカバーが実行されます。

## XMLスキーマ

```
<?xml version="1.1" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<xs:schema elementFormDefault="qualified" version="1.0" xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  <xs:complexType name="displayNameBase" abstract="true">
```

```

    <xs:attribute name="locale" type="xs:string" use="required" />
  </xs:complexType>

<xs:complexType name="displayNameValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="displayNameBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string"
          maxOccurs="1" minOccurs="1" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="candidateValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="value" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="index" type="xs:int" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="defaultValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="defaultValueString" type="stringAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="defaultValueBoolean" type="booleanAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="isCreateDate" type="xs:boolean" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="defaultValueDate" type="dateAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="defaultValueInteger" type="integerAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="defaultValueLong" type="longAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="defaultValueBigDecimal" type="bigDecimalAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="isRegisteredUgld" type="xs:boolean" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
    <xs:element name="defaultValueUgld" type="ugidAttributeValue" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="attributeDefinitionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="names" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue"
            maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="descriptions" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue"
            maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="candidates" maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="candidate" type="candidateValue" maxOccurs="20" minOccurs="1" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="defaultValue" type="defaultValue" maxOccurs="1" minOccurs="0" />
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues"
      maxOccurs="1" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="type" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="minMultiplicity" type="xs:int" use="required"/>
  <xs:attribute name="maxMultiplicity" type="xs:int" use="required"/>
  <xs:attribute name="searchable" type="xs:boolean" use="optional"/>
  <xs:attribute name="sortable" type="xs:boolean" use="optional"/>
  <xs:attribute name="versionable" type="xs:boolean" use="optional"/>
  <xs:attribute name="visible" type="xs:boolean" use="optional"/>
</xs:complexType>

```

```

<xs:complexType name="attributeDefinitionsValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="attributeDefinition" type="attributeDefinitionValue"
      maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="attributeDefinitions" type="attributeDefinitionsValue"/>

<xs:complexType name="versionSettingValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="numberOfVersion" type="xs:int" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
    <xs:element name="prefix" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
    <xs:element name="suffix" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
    <xs:element name="firstVersion" maxOccurs="1" minOccurs="1" >
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="value" type="xs:int" maxOccurs="4" minOccurs="1" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="classDefinitionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="names" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue"
            maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="descriptions" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue"
            maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="attributelds" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="attributeld" type="attrIdValue"
            maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues"
      maxOccurs="1" minOccurs="0" />
    <xs:element name="versionSetting" type="versionSettingValue" maxOccurs="1" minOccurs="0" />
    <xs:element name="attrViewSetting" maxOccurs="1" minOccurs="0" >
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="superClassId" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="classDefinitionsValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="classDefinition" type="classDefinitionValue"
      maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="classDefinitions" type="classDefinitionsValue"/>

```

```

<xs:complexType name="tagDefinitionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="acl" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="ace" type="aceValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="linkedObjects" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="object" type="objectValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="tagDefinitions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="tagDefinition" type="tagDefinitionValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="tagDefinitions" type="tagDefinitions"/>

<xs:complexType name="subscriptionDefinitionValue"
  final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues" maxOccurs="1" minOccurs="0" />
    <xs:element name="linkedObjects" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="object" type="objectValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="subscriptionDefinitions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="subscriptionDefinition" type="subscriptionDefinitionValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="subscriptionDefinitions" type="subscriptionDefinitions"/>

<xs:complexType name="portalNoticeDataDefinitionValue"
  final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="portalNoticeDataDefinitions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="portalNoticeDataDefinition" type="portalNoticeDataDefinitionValue" maxOccurs="unbounded"
  minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="portalNoticeDataDefinitions" type="portalNoticeDataDefinitions"/>

<xs:complexType name="preferenceElementValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="key" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="value" type="xs:string" use="required" />

```



```

</xs:complexType>

<xs:complexType name="preferenceDefinitionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="preferenceElements" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="preferenceElement" type="preferenceElementValue"
            minOccurs="0" maxOccurs="unbounded" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="treeld" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="path" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="preferenceDefinitions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="preferenceDefinition" type="preferenceDefinitionValue"
      minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="securityDefinitionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="names" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue"
            minOccurs="0" maxOccurs="4" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="ownerPassword" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="requiredOpenPassword" type="xs:boolean" minOccurs="0" />
    <xs:element name="printRestriction" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="changeRestriction" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="copyRestriction" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="textAccessRestriction" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="expirationDate" type="xs:int" minOccurs="0" />
    <xs:element name="downloadRestriction" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="targetClassIds" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="targetClassId" type="xs:string"
            minOccurs="0" maxOccurs="500" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="type" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="isDefault" type="xs:boolean" use="optional" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="securityDefinitions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="securityDefinition" type="securityDefinitionValue"
      minOccurs="1" maxOccurs="200" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="securityDefinitions" type="securityDefinitions"/>

<xs:complexType name="retentionDefinitionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="names" maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue"
            minOccurs="0" maxOccurs="4" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="type" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="isDefault" type="xs:boolean" use="optional" />
</xs:complexType>

```

```

</xs:sequence>
</xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="configurationLevel" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="restrictDeletion" type="xs:boolean" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="restrictExpiredDocumentOperations" type="xs:boolean" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="acceptExtensionPeriod" type="xs:boolean" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="defaultOwners" maxOccurs="1" minOccurs="0" >
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element name="defaultOwner" type="xs:string" maxOccurs="5" minOccurs="1" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="retentionPeriodInitialDateType" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="firstMonthOfBusinessYear" type="xs:int" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="defaultRetentionPeriod" type="xs:int" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="defaultRetentionPeriodUnit" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="defaultCertTarget" type="xs:boolean" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="noticeDaysBefore" type="xs:int" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="noticeMethods" maxOccurs="1" minOccurs="0" >
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element name="noticeMethod" type="xs:string" maxOccurs="3" minOccurs="0" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="ownerOfCopyDestination" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="retentionPeriodOfCopyDestination" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
<xs:element name="targetClassIds" maxOccurs="1" minOccurs="0" >
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element name="targetClassId" type="xs:string"
        maxOccurs="500" minOccurs="0" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
<xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
<xs:attribute name="isDefault" type="xs:boolean" use="optional" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="retentionDefinitions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="retentionDefinition" type="retentionDefinitionValue"
      minOccurs="0" maxOccurs="200" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="retentionDefinitions" type="retentionDefinitions"/>

<xs:complexType name="aceValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="principalId" type="xs:string" />
  <xs:attribute name="permission" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="attrIdValue">
  <xs:attribute name="value" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="attrValueBase" abstract="true">
  <xs:sequence/>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="nullAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="booleanAttributeValue" final="extension restriction">

```

```

<xs:complexContent>
  <xs:extension base="attrValueBase">
    <xs:sequence>
      <xs:element name="value" type="xs:boolean" minOccurs="0" />
    </xs:sequence>
  </xs:extension>
</xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="booleanListAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:boolean" maxOccurs="unbounded"
          minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="integerAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:int" minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="integerListAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:int" maxOccurs="unbounded"
          minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="longAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:long" minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="longListAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:long" maxOccurs="unbounded"
          minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="stringAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="stringListAttributeValue" final="extension restriction">

```

```

<xs:complexContent>
  <xs:extension base="attrValueBase">
    <xs:sequence>
      <xs:element name="value" type="xs:string" maxOccurs="unbounded"
        minOccurs="0" />
    </xs:sequence>
  </xs:extension>
</xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="ugidAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="ugidListAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" maxOccurs="unbounded"
          minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="dateAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="dateListAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" maxOccurs="unbounded"
          minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="bigDecimalAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="bigDecimalListAttributeValue" final="extension restriction">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension base="attrValueBase">
      <xs:sequence>
        <xs:element name="value" type="xs:string" maxOccurs="unbounded"
          minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

```

```

<xs:complexType name="attrValues" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:choice maxOccurs="unbounded" minOccurs="0">
      <xs:element name="booleanAttributeValue" type="booleanAttributeValue" />
      <xs:element name="booleanListAttributeValue" type="booleanListAttributeValue" />
      <xs:element name="integerAttributeValue" type="integerAttributeValue" />
      <xs:element name="integerListAttributeValue" type="integerListAttributeValue" />
      <xs:element name="longAttributeValue" type="longAttributeValue" />
      <xs:element name="longListAttributeValue" type="longListAttributeValue" />
      <xs:element name="stringAttributeValue" type="stringAttributeValue" />
      <xs:element name="stringListAttributeValue" type="stringListAttributeValue" />
      <xs:element name="ugidAttributeValue" type="ugidAttributeValue" />
      <xs:element name="ugidListAttributeValue" type="ugidListAttributeValue" />
      <xs:element name="dateAttributeValue" type="dateAttributeValue" />
      <xs:element name="dateListAttributeValue" type="dateListAttributeValue" />
      <xs:element name="bigDecimalAttributeValue" type="dateAttributeValue" />
      <xs:element name="bigDecimalListAttributeValue" type="dateListAttributeValue" />
    </xs:choice>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="scopeldValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="objectId" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="searchCondValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="type" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="value" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="startDate" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="endDate" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="startValue" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="endValue" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="startOperator" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="endOperator" type="xs:string" minOccurs="0" />
    <xs:element name="label" type="xs:string" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="attributeld" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="operation" type="xs:string" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="queryConditionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="value" type="xs:string" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="scopeld" type="scopeldValue" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="targetClassList" minOccurs="0" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="targetClass" type="xs:string" maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="specifiedClassList" minOccurs="0" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="specifiedClass" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="searchCondList" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="searchCond" type="searchCondValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="searchType" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="linkValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="destObjectId" type="xs:string" use="required" />

```

```

</xs:complexType>

<xs:complexType name="linksValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="link" type="linkValue" maxOccurs="unbounded"
      minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="name" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="noticeInformationValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="shareInformationValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues"
      minOccurs="0" />
    <xs:element name="noticeInformation" type="noticeInformationValue" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="expiredDocumentSetting" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="displayExpiredDocument" type="xs:boolean" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="expiredDocumentSettingModifiedDate" type="xs:string" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="objectListViewSetting" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="default" type="xs:string" maxOccurs="1" minOccurs="1"/>
    <xs:element name="settings" maxOccurs="1" minOccurs="1" >
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="setting" type="xs:string" maxOccurs="5" minOccurs="1" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="objectMenuViewSetting" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="flowViewSetting" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="upload" minOccurs="1" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="10" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="checkin" minOccurs="1" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="10" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="del" minOccurs="1" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="10" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>

```

```

</xs:complexType>

<xs:complexType name="objectValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="acl" minOccurs="0" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="ace" type="aceValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="sharedAcl" minOccurs="0" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="ace" type="aceValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="shareInformations" minOccurs="0" maxOccurs="1">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="shareInformation" type="shareInformationValue" maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="queryCondition" type="queryConditionValue" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="contentSizeLimit" type="xs:int" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="grantAdminRoleForCreator" type="xs:boolean" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="searchResultLimit" type="xs:int" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="expiredDocumentSetting" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="objectListViewSetting" type="objectListViewSetting" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="objectMenuViewSetting" type="objectMenuViewSetting" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:element name="flowViewSetting" type="flowViewSetting" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="objectId" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="classId" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="repositoryVersionId" type="xs:string" use="optional" />
  <xs:attribute name="rootClassId" type="xs:string" use="optional" />
</xs:complexType>

<xs:element name="object" type="objectValue"/>

<xs:complexType name="versionValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="attributeValues" type="attrValues"
      minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="objectId" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="number" type="xs:int" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="versions" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="version" type="versionValue"
      maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="versions" type="versions" />

<xs:complexType name="MessageDataValue">
  <xs:simpleContent>
    <xs:extension base="xs:string">
      <xs:attribute name="type" type="xs:string" use="required" />
    </xs:extension>
  </xs:simpleContent>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="messageValue">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="messageData" type="MessageDataValue" maxOccurs="unbounded"
      minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

```

```

minOccurs="1" />
</xs:sequence>
<xs:attribute name="locale" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="messageTemplateValue">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="message" type="messageValue" maxOccurs="unbounded"
      minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="noticeType" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="messageTemplateDefinitionValue">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="messageTemplate" type="messageTemplateValue"
      maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="templateType" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="messageTemplateDefinitionsValue">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="messageTemplateDefinition" type="messageTemplateDefinitionValue"
      maxOccurs="unbounded" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="messageTemplateDefinitions" type="messageTemplateDefinitionsValue" />

<xs:complexType name="listViewItemValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="width" type="xs:int" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="listViewSortValue" final="extension restriction">
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="index" type="xs:int" use="required" />
  <xs:attribute name="order" type="xs:string" use="required" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="listViewSettingValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="names" maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue" maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="descriptions" maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue" maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="items" maxOccurs="1" minOccurs="1" >
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="item" type="listViewItemValue" maxOccurs="500" minOccurs="1" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="sorts" maxOccurs="1" minOccurs="0" >
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="sort" type="listViewSortValue" maxOccurs="3" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />

```



```
</xs:complexType>
```

```
<xs:complexType name="listViewSettings" final="extension restriction">
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="listViewSetting" type="listViewSettingValue" maxOccurs="200" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
<xs:element name="listViewSettings" type="listViewSettings"/>
```

```
<xs:complexType name="menuViewSettingItems" final="extension restriction">
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="batchOperation" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="6" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="createFolder" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="createDocument" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="createSecureDocument" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="drawerOperation" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="5" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="folderOperation" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="7" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="documentOperation" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="9" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="secureDocumentOperation" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="9" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```
</xs:complexType>
```

```
</xs:element>
```

```
<xs:element name="attributeCondition" minOccurs="1" maxOccurs="1">
```

```
<xs:complexType>
```

```
<xs:sequence>
```

```
<xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
```

```
</xs:sequence>
```

```

</xs:complexType>
</xs:element>
<xs:element name="classCondition" minOccurs="1" maxOccurs="1">
  <xs:complexType>
    <xs:sequence>
      <xs:element name="item" type="xs:string" maxOccurs="500" minOccurs="0" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
</xs:element>
</xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:complexType name="menuViewSettingValue" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="names" maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue" maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="descriptions" maxOccurs="1" minOccurs="0">
      <xs:complexType>
        <xs:sequence>
          <xs:element name="displayName" type="displayNameValue" maxOccurs="4" minOccurs="0" />
        </xs:sequence>
      </xs:complexType>
    </xs:element>
    <xs:element name="items" type="menuViewSettingItems" maxOccurs="1" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="id" type="xs:string" use="required" />
  <xs:attribute name="isDefault" type="xs:boolean" use="optional" />
</xs:complexType>

<xs:complexType name="menuViewSettings" final="extension restriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="menuViewSetting" type="menuViewSettingValue" maxOccurs="20" minOccurs="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>

<xs:element name="menuViewSettings" type="menuViewSettings"/>
</xs:schema>

```